

EchoLife HN8255Ws

取扱説明書

発行 01
日付 2018-10-23

Copyright © Huawei Technologies Co., Ltd. 2018. All rights reserved.

文書による華為の事前承諾なしに、本書のいかなる部分も、いかなる形式またはいかなる手段によっても複製または転載は許可されません。

商標および許諾



HUAWEI およびその他のファーウェイ（華為）の商標は華為技術有限公司の商標です。

このドキュメントに記載されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。

注意

購入した製品、サービスおよび機能は華為とお客様の間の契約によって規定されます。本文書に記載されている製品、サービスおよび機能の全体または一部は、購入範囲または使用範囲に含まれない場合があります。契約で規定しない場合、本文書内の記述、情報、推奨事項はすべて「無保証 (AS IS)」で提供されており、明示的または暗黙的ないかなる保証も約束も行いません。

この文書の記載内容は、予告なく変更されることがあります。この文書作成にあたっては内容の正確に最大限の注意を払っておりますが、この文書内のいかなる説明、情報、推奨事項も、明示的または暗黙的に何らかの保証を行うものではありません。

Huawei Technologies Co., Ltd.

住所: Huawei Industrial Base
Bantian, Longgang
Shenzhen 518129
People's Republic of China

Web サイト: <http://www.huawei.com>

E メール: support@huawei.com

本章について

目的

10G 対応パッシブ光ネットワーク(XGS-PON)端末 EchoLife HN8255Ws (以降 HN8255Ws と呼ぶ)は、ホームユーザー向けに設計された屋内光ネットワークユニット (ONU)です。本書では、HN8255Ws の外観と仕様、およびその設定と使用方法について説明します。これにより、HN8255Ws についての知識を短期間で得ることができます。




製品バージョン



以下の表に、本書に関連する製品バージョンを示します。

製品名	製品バージョン
EchoLife HN8255Ws	V300R018C00

マークの表記

本書で使用するマークは、以下のように定義されています。

マーク	説明
 危険	回避しなければ、死亡または重傷につながる、危険が差し迫った状況を示しています。
 警告	回避しなければ、死亡または重傷につながるおそれのある、危険を伴う状況を示しています。
 注意	回避しなければ、軽傷または中程度の負傷につながるおそれのある、危険を伴う状況を示しています。

 注意事項	<p>回避しなければ、機器の損傷、データの喪失、パフォーマンスの低下、予期しない結果につながるおそれのある、危険を伴う状況を示します。</p> <p>注意事項は、人体の損傷に関係のない行為に対処するために使用されます。</p>
 注記	<p>重要な情報、ベストプラクティス、ヒントなどを示します。</p> <p>注記は、人体の損傷、機器の損傷、環境悪化に関係のない情報に対処するために使用されます。</p>

目次

本章について.....	ii
1 安全上のご注意.....	1
2 システム概要.....	3
2.1 製品概要.....	3
2.2 仕様.....	7
2.2.1 物理的仕様.....	7
2.2.2 プロトコルおよび規格.....	8
2.3 代表的なネットワークアプリケーション.....	8
3 同梱品一覧.....	9
4 設置.....	11
4.1 HN8255Ws の設置.....	11
4.2 電源ケーブルの接続およびボタン設定.....	12
5 管理画面へのログイン方法.....	14
6 Web ページでのインターネットアクセスサービスの設定.....	31
7 Web ページでの Wi-Fi アクセスサービスの設定.....	33
8 Web ページのリファレンス.....	40
8.1 高速設定.....	40
8.2 ホームページ.....	41
8.3 ワンクリック診断.....	41
8.4 システム情報.....	42
8.4.1 デバイス情報.....	42
8.4.2 WAN 情報.....	43
8.4.3 光学情報.....	44
8.4.4 ETH ポート情報.....	45
8.4.5 WLAN 情報.....	45
8.5 詳細設定.....	46
8.5.1 LAN 設定.....	46
8.5.1.1 LAN ホスト設定.....	46
8.5.1.2 DHCP サーバ設定.....	47
8.5.1.3 DHCP スタティック IP 設定.....	48
8.5.1.4 DHCPv6 サーバ設定.....	49

8.5.1.5 DHCPv6 スタティック IP 設定	51
8.5.1.6 DHCPv6 情報	52
8.5.2 セキュリティ設定	52
8.5.2.1 DoS 設定	52
8.5.2.2 IPv4 アドレスフィルタリング	53
8.5.2.3 MAC アドレスフィルタリング	55
8.5.2.4 Wi-Fi MAC アドレスフィルタリング	56
8.5.2.5 ペアレンタルコントロール	58
8.5.3 転送ルール	58
8.5.3.1 DMZ 設定	58
8.5.3.2 Ipv4 ポートマッピング	60
8.5.3.3 ポートトリガ設定	61
8.5.4 アプリケーション	63
8.5.4.1 時間設定	63
8.5.4.2 メディア共有	64
8.5.4.3 UPnP 設定	64
8.5.4.4 スタティック DNS	65
8.5.5 WLAN	66
8.5.5.1 2.4G 基本ネットワーク設定	66
8.5.5.2 2.4G 詳細ネットワーク設定	69
8.5.5.3 5G 基本ネットワーク設定	70
8.5.5.4 5G 詳細ネットワーク設定	73
8.5.6 システム管理	74
8.5.6.5 アカウント管理	75
8.5.6.6 ご利用上の注意	75
8.5.7 保守診断	77
8.5.7.7 保守	77
8.5.7.8 ログ	77
A 頭字語および略語	79

1 安全上のご注意

本製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

基本的な要件

- 本製品は保管、輸送、および稼働時は乾燥した状態を保ってください。
- 本製品は保管、輸送、および稼働時は他の物体にぶつからないようにしてください。
- 本製品を設置するにはメーカーの要件を必ず守ってください。
- 本製品を勝手に分解しないでください。本製品に異常がある場合は、サービス提供元が指定するお問い合わせ先にご連絡ください。
- 本製品の構造、安全設計、性能設計を許可なく変更しないでください。
- 本製品を使用する際には各国・地域の法令を遵守し、他者の法的権利を尊重してください。
- 本製品がご不要になった際は、サービス提供元が指定するお問い合わせ先にご連絡ください。

環境要件

- 本製品は直射日光の当たらない、風通しの良い場所に設置してください。
- 本製品は清潔な状態に保ってください。
- 本製品は水周りまたは湿った場所のそばに置かないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。熱や歪みにより本製品が損傷する場合があります。
- 放熱のため、機器の周囲に少なくとも 10cm 以上のスペースを確保してください。
- 本製品はヒーターやろうそくなどの熱源や火気の近くに置かないでください。
- 本製品を電子レンジ、冷蔵庫、携帯電話など、強力な磁場や磁界が発生する電子機器のそばに置かないでください。

使用上のご注意

- 付属の電源アダプタ以外は使用しないでください。
- 利用電圧は本製品の入力電圧の要件に適合している必要があります。

- 本製品の電源アダプタは、たこ足配線にしないでください。たこ足配線にするとテーブルタップなどが過熱、劣化する可能性があり、危険です。
- 感電またはその他の危険を回避するために、電源プラグは清潔で乾燥した状態を保ってください。
- ケーブルの抜き差しは、必ず機器を停止して、電源を切ってから行ってください。
- 雷が発生した場合には、電源を切って、電源ケーブル、モジュラーケーブル、電話線などすべてのケーブルを抜いてください。
- 本製品を長期間使用しない場合には、電源を切って電源プラグを抜いてください。
- 本製品は水や液体で濡らさないようにしてください。水や他の液体で濡れた場合には、すぐに電源を切って、本製品から電源ケーブルやモジュラーケーブルなどすべてのケーブルを抜いてください。本製品が故障した場合にはサービス提供元が指定するお問い合わせ先にご連絡ください。
- 損傷するおそれがあるため、ケーブルを踏みつけたり、引っ張ったり、引きずったり、無理やり曲げたりしないでください。ケーブルが損傷すると、本製品が故障するおそれがあります。
- 損傷または劣化したケーブルは使用しないでください。
- 保護メガネを着用せずに直接光ポートを覗き込んだりしないでください。光ポートから放射されるレーザーによって眼を痛めるおそれがあります。
- 発煙、異常な音、異臭などが発生したら、ただちに本製品の使用を中止して、電源を切り、全てのケーブル(電源ケーブルやモジュラーケーブルなど)を抜いてください。本製品に異常がある場合は、サービス提供元が指定するお問い合わせ先にご連絡ください。
- 金属部品などの異物が通気孔から本製品に入らないようにしてください。
- 引っかいた場所からはがれた塗装によって本製品に異常が発生するおそれがあるため、本製品の外装を引っかいたりしないでください。塗装が本製品に入ると、ショートするおそれがあります。また、はがれた塗装によって人体にアレルギー反応が発生するおそれがあります。
- 部品や付属品を誤って飲み込むことがないように幼児の手の届かないところに設置してください。

清掃上のご注意

- 本製品を清掃する前に、本製品を停止し、電源を切って、本製品から電源ケーブルやモジュラーケーブルなどすべてのケーブルを抜いてください。
- クリーニング液またはスプレー式洗浄剤を使用して本製品の外装を清掃しないでください。柔らかい布を使用して清掃してください。

2 システム概要

本章について

本章では、HN8255Ws の概要を示します。

2.1 製品概要

ここでは、HN8255Ws の外観を示し、そのポートと LED 種別について説明します。

2.2 仕様

ここでは、HN8255Ws の物理的仕様や HN8255Ws が準拠している規格およびプロトコルなどの仕様について説明します。

2.3 代表的なネットワークアプリケーション

ここでは、HN8255Ws の代表的なネットワークアプリケーションについて説明します。

2.1 製品概要

ここでは、HN8255Ws の外観を示し、そのポートと LED 種別について説明します。

外観

図 2-1 HN8255Ws 正面の外観

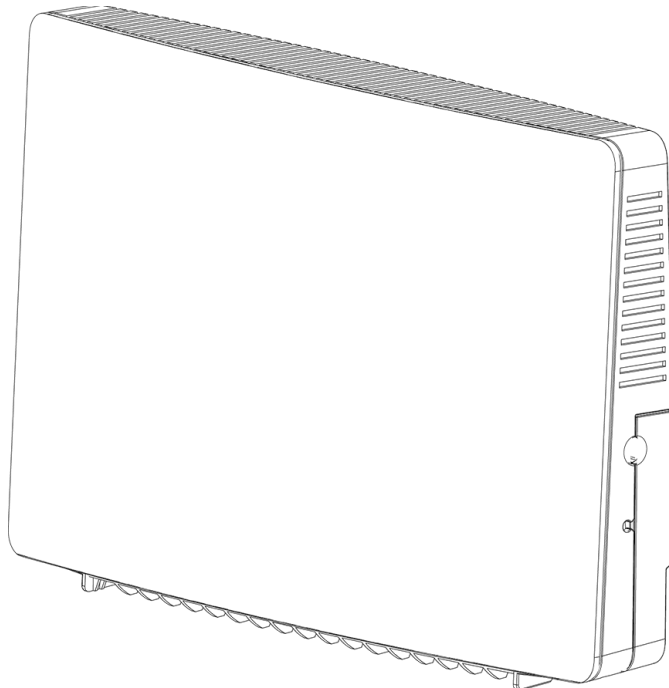


図 2-2 HN8255Ws 背面の外観

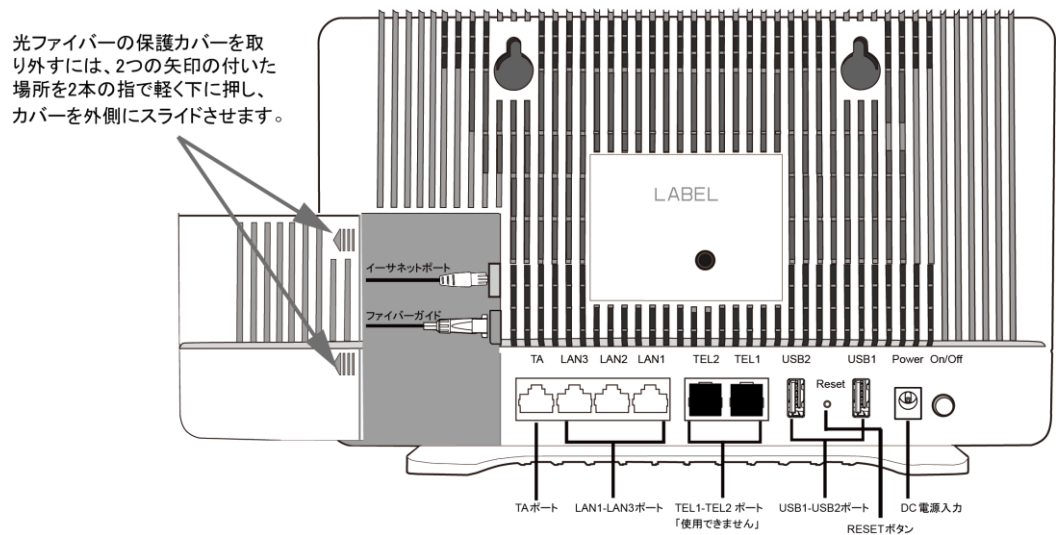


表 2-1 では、HN8255Ws の各ポートおよびボタンの機能について説明します。

表 2-1 HN8255Ws のポートおよびボタンの機能

ポート/ボタン	機能
POWER	電源アダプタまたはバックアップ電源ユニットに接続するために使用する電源ポート。
TA	関連パラメータを設定した後に電話機またはファクシミリに接続するために使用するオートセンシング 10/100/1000M Base-T イーサネットポート (RJ-45)。
LAN1～LAN3	PC や TV 等に接続するために使用するオートセンシング 10/100/1000M Base-T イーサネットポート (RJ-45)。
USB1～USB2	USB ストレージデバイスに接続するために使用する USB ポート。
RESET	リセットボタン。このボタンを数秒間押下すると、本製品がリセットされます。このボタンを長時間 (10 秒以上) 押し続けると、本製品が工場出荷時の設定に戻った後、リセットされます。
WLAN	無線 LAN 機能 (Wi-Fi) を有効または無効にするために使用するボタンです。この機能はデフォルトで有効になっています。
WPS	無線 LAN データ暗号化機能を有効または無効にするために使用する Wi-Fi 保護設定 (WPS) ボタンです。この機能はデフォルトで無効になっています。

LED 種別

図 2-3 に、HN8255Ws の LED 種別を示します。

図 2-3 HN8255Ws のLED種別

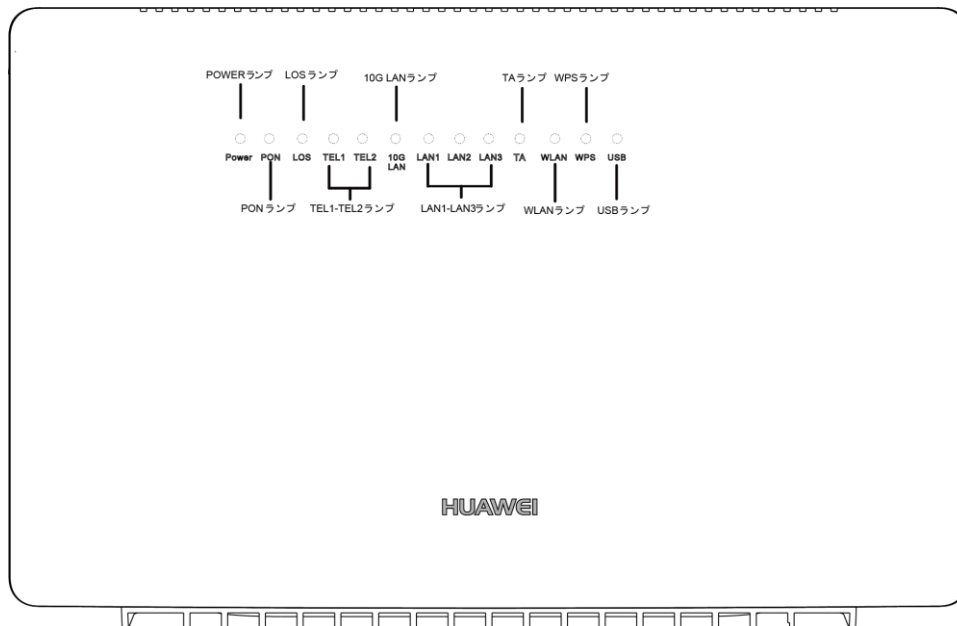


表 2-2 では、HN8255Ws のLED種別の意味について説明します。

表 2-2 HN8255Ws のLED種別の意味

LED種別	LED色	LED状態	説明
POWER	緑	点灯	HN8255Ws の電源がオンになっています。
		オフ	電源が切れています。
PON	緑	点灯	HN8255Ws の認証に成功しています。
		点滅	HN8255Ws の認証中です。
		オフ	HN8255Ws が認証されていません。
LOS	赤	点灯	光リンクで障害が発生しています。
		点滅	システムをアップグレードしています。
		オフ	光リンクが正常です。
10G LAN	緑	点灯	インターネットに正常に接続されています。
		点滅	DHCP を使用して、HN8255Ws は IP アドレスを取得しています。
		オフ	HN8255Ws は IP アドレスを取得していません。

LED種別	LED色	LED状態	説明
LAN1～LAN3	緑	点灯	LAN 接続されています。
		点滅	LAN 接続でデータ通信中です。
		オフ	LAN ポートに機器が接続されていません。
TA	緑	点灯	TA 接続されています。
		点滅	TA 接続でデータ通信中です。
		オフ	TA ポートに機器が接続されていません。
WLAN	緑	点灯	WLAN機能が有効になっています。
		点滅	WLANポートでデータが送信されています。
		オフ	WLAN機能は無効になっています。
WPS	緑	点灯	WPS 機能が有効になっていて、Wi-Fi 端末が HN8255Ws に正常にアクセスしています。
	黄色	点滅	Wi-Fi 端末が HN8255Ws にアクセスしています。
	赤	点滅	Wi-Fi 端末が HN8255Ws へのアクセスに失敗しています。
	-	オフ	WPS 機能が有効になっていません。
USB	緑	点滅	USB ポートが接続され、ホストモードで動作中ですが、データが送信されていません。
		点滅	USB ポート上でデータを送信中です。
		オフ	システムの電源が ON になっていないか、USB ポートが接続されていません。

2.2 仕様

ここでは、HN8255Ws の物理的仕様や HN8255Ws が準拠している規格およびプロトコルなどの仕様について説明します。

2.2.1 物理的仕様

ここでは、寸法、重量、電圧範囲、動作環境パラメータなど、HN8255Ws の物理的仕様について説明します。

表 2-3 に、HN8255Ws の物理的仕様を示します。

表 2-3 HN8255Ws の物理的仕様

項目	仕様
寸法(幅 x 奥行き x 高さ)	HN8255Ws: 305 mm x 82.5 mm x 198 mm
重量	約 1200g
システム全体の電源	12V DC、4A
電源アダプタ入力	100 V ~ 240 V、50 Hz / 60 Hz
最大消費電力	18.5W 以下
周囲温度	0°C~+40°C
保管および輸送温度	-40°C~+70°C
周囲湿度	5% ~ 95%(結露なし)

2.2.2 プロトコルおよび規格

ここでは、HN8255Ws が準拠しているプロトコルおよび規格を示します。

- XGS-PON: ITU-T 勧告 G.988/G.9807.1
- マルチキャスト: IGMPv2、IGMPv3、および IGMP スヌーピング
- ルーティング: ネットワークアドレス変換(NAT)およびアプリケーションレベルゲートウェイ(ALG)
- LAN インターフェース: IEEE 802.3/IEEE 802.3u/IEEE 802.3ab/IEEE 802.3ae
- USB: USB 2.0/USB 3.0
- Wi-Fi: IEEE 802.11a/b/g/n/ac
- CPE WAN 管理プロトコル: TR-069

2.3 代表的なネットワークアプリケーション

ここでは、HN8255Ws の代表的なネットワークアプリケーションについて説明します。

HN8255Ws はネットワーク端末として XGS-PON アクセスレイヤに配備され、上り光ポートを介して個人宅ユーザーをインターネットに接続します。ローカルエリアネットワーク(LAN)側(すなわち、ユーザー側)から見ると、HN8255Ws には豊富なハードウェアポートが用意されていて、個人宅ユーザーのさまざまなネットワーク要件が満たされます。

3 同梱品一覧

本章では、図 3-1 に示すように、HN8255Ws、縦置きスタンド、電源アダプタなど、荷箱に入っているものについて説明します。

図 3-1 荷箱

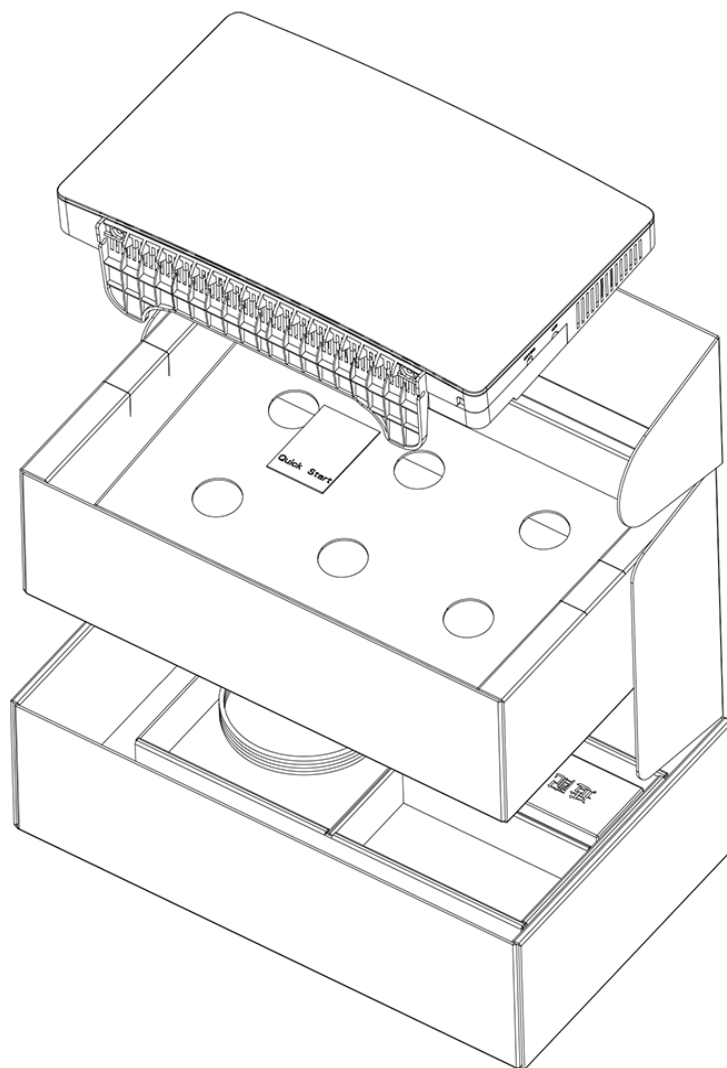


表 3-1 同梱品一覧

名前	図
HN8255Ws 本体	
電源ケーブルおよび電源アダプタ	
LAN ケーブル(1本)(ストレート)	
簡易ユーザーガイド	

4 設置

本章について

本章では、HN8255Ws を設置し、ケーブルを接続する手順について説明します。

4.1 HN8255Ws の設置

ここでは、HN8255Ws の設置方法について説明します。

4.2 電源ケーブルの接続およびボタン設定

ここでは、HN8255Ws のポートを他のデバイスに接続する手順について説明します。

4.1 HN8255Ws の設置

ここでは、HN8255Ws の設置方法について説明します。

手順

- ステップ 1** XGS-PON 端末の取り付けに使用する 2 つの穴の位置をマーキングし、この 2 つの穴の距離が実際の取り付け穴の距離と同じになっていることを確認します。

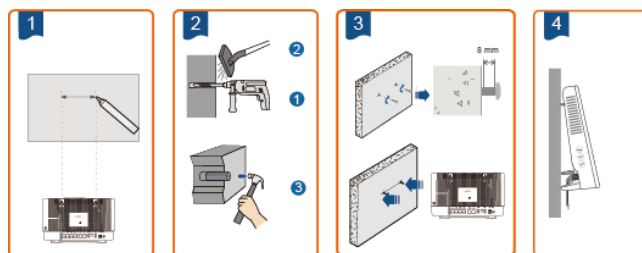


注意事項

- XGS-PON 端末は屋外に設置したり、屋外のキャビネットに設置したりしないでください。
- 光ポートには、ラバープラグが付いており、光ファイバーが接続されます。
- 光ポートに接続する光コネクタは SC/UPC コネクタです。
- ファイバーが正常に動作するには、ファイバーの曲げ半径を 30mm 以上にしてください。

- ステップ 2** ねじの外径に従って適切なドリルを選択します。ハンマードリルを使用し、壁のマーキングした位置に穴をあけます。次に、壁をきれいにし、2 つの拡張ボルトを取り付けます。

ステップ 3 ドライバーを使用してねじを拡張ボルトにねじ込み、壁からねじ部分が 8mm 出るようにします。次に、このねじに XGS-PON 端末を取り付けます。



4.2 電源ケーブルの接続およびボタン設定

ここでは、HN8255Ws のポートを他のデバイスに接続する手順について説明します。

手順

ステップ 1 電源アダプタを DC IN ポートに接続し、電源ケーブルを AC 電源コンセントに接続します。HN8255Ws の電源が正常にオンになると、LEDが以下の図のように点灯します。

図 4-1 HN8255Ws の電源が正常にオンになると点灯する LED



ステップ 2 Wi-Fi 機能はデフォルトで有効になっています。Wi-Fi 無線アクセス機能を有効/無効にするには、側面の WLAN ボタンを押します。

ステップ 3 無線アクセス用 WPS (Wi-Fi 保護設定) 暗号化機能を有効にするには、側面の WPS ボタンを押します。

注記

WPS 暗号化機能を有効にするには、あらかじめソフトウェア内で WPS 暗号化機能が設定されている必要があります。WPS ボタンを押しても WPS 暗号化機能が有効にならない場合、サービス提供元の指定するお問い合わせ先にお問い合わせください。HN8255Ws が外部デバイスへの接続に成功し、WPS 機能が有効になっている場合、LED は以下の図のように点灯します。

図 4-2 HN8255Ws が外部デバイスへの接続に成功すると点灯する LED





注記

LAN1、LAN2、LAN3、TA が接続されていて、2.4G Wi-Fi および 5G Wi-Fi それぞれについて有効化（「WLAN の有効化」）設定をしている場合、上記の図のように点灯します。

WAN データを Web ページで設定し、インターネットに正常に接続されると、WAN インジケータが緑色に点灯します。

5 管理画面へのログイン方法

本章では、Web ページを介して HN8255Ws にログインするためのユーザー名/パスワードおよび手順について説明します。

はじめに

管理画面へのログインを行う前に表 5-1 初期設定情報一覧「PC の IP アドレスとサブネットマスク」に記載した設定が完了していることを確認してください。

表 5-1 初期設定情報一覧

項目	説明
ユーザー名とパスワード	<p>デフォルト設定:</p> <ul style="list-style-type: none">ユーザー:<ul style="list-style-type: none">ユーザー名: adminパスワード: admin <p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none">ログインしてから 5 分間何も操作が実行されないと、ログインがタイムアウトして自動的にログアウトされ、ログイン待ち状態に戻ります。ユーザー名とパスワードを入力すると、ユーザーアカウントのロックを解除できます。間違ったユーザー名とパスワードが 3 回続けて入力されると、システムはロックされます。1 分後に自動的にシステムのロックが解除されます。初期のユーザー名とパスワードを使用して Web ページからログイン後、パスワードを変更してください。
LAN IP アドレスとサブネットマスク	<p>デフォルト設定:</p> <ul style="list-style-type: none">IP アドレス: 192.168.1.1サブネットマスク: 255.255.255.0

項目	説明
PC の IP アドレスとサブネットマスク	<p>PC で自動的に IP アドレスを取得するよう設定して、PC の IP アドレスが HN8255Ws の LAN IP アドレスと同じサブネット内に属するよう設定します。</p> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none"> • IP アドレス:192.168.1.100 • サブネットマスク:255.255.255.0

手順

ステップ 1 付属の LAN ケーブルを使用して、HN8255Ws 本体の LAN ポートと PC 端末を接続します。

ステップ 2 PC で自動的に IP アドレスを取得します。また、PC の IP アドレスが HN8255Ws の管理用 IP アドレスと同じサブネット内に属していることを確認します。

本書は PC で自動的に IP アドレスを取得する方法について、Windows 10、Windows 8、Windows 7、Mac OS X 10.8.2、Mac OS X 10.13.6 の各 OS ごとに説明しています。

- Windows 10 のケース


- OS にログインした後、**スタートボタン** (デスクトップの左下隅の  ボタン) を選択し、**コントロール パネル** を選択すると、図 5-1 に示すような **コントロール パネル** ウィンドウが表示されます。

図 5-1 コントロール パネルダイアログボックス



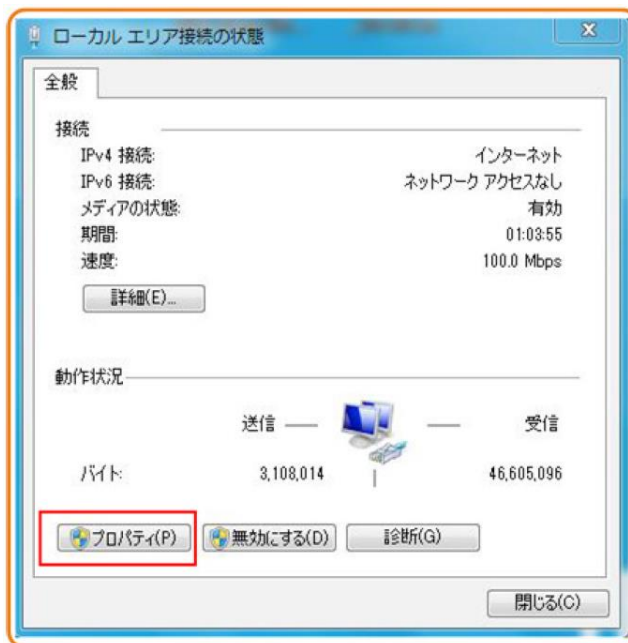
- ネットワークとインターネット** の下の **ネットワークの状態とタスクの表示** を選択します。図 5-2 に示すような **ネットワークと共有センター** ウィンドウが表示されます。

図 5-2 ネットワークと共有センターウィンドウ



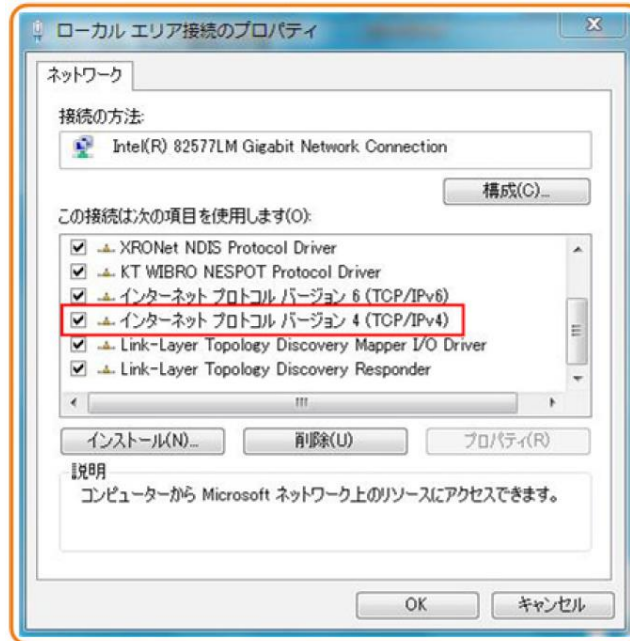
- c. アクティブなネットワークの表示エリアのローカル エリア接続を選択します。図 5-3 に示すようなローカル エリア接続の状態ダイアログボックスが表示されます。

図 5-3 ローカル エリア接続の状態ダイアログボックス



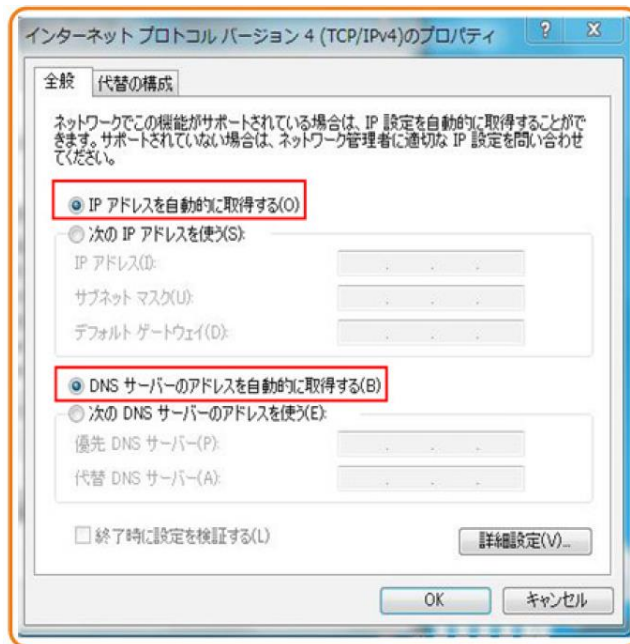
- d. プロパティを選択すると、図 5-4 のようなローカル エリア接続のプロパティダイアログボックスが表示されます。

図 5-4 ローカル エリア接続のプロパティダイアログボックス



- e. ネットワークタブを選択して、この接続は次の項目を使用しますリストボックス内のインターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)をダブル選択します。図 5-5 のようなインターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティダイアログボックスが表示されます。
- f. 全般タブを選択して、図 5-5 に示すような IP アドレスを自動的に取得すると DNS サーバのアドレスを自動的に取得するを選択します。

図 5-5 インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティダイアログボックス



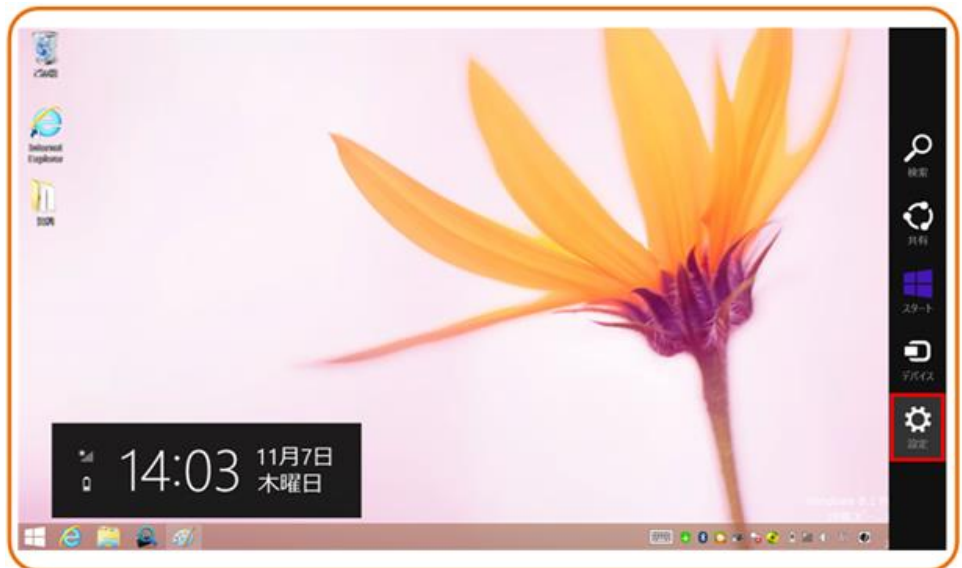
- g. **OK** を選択して設定を完了して、ローカルエリア接続の状態ダイアログボックスに戻ります。
- h. **OK** を選択して設定を完了します。
- Windows 8 のケース
 - a. OS にログインした後、図 5-6 に示すように[デスクトップ]を選択します。

図 5-6 スタート画面



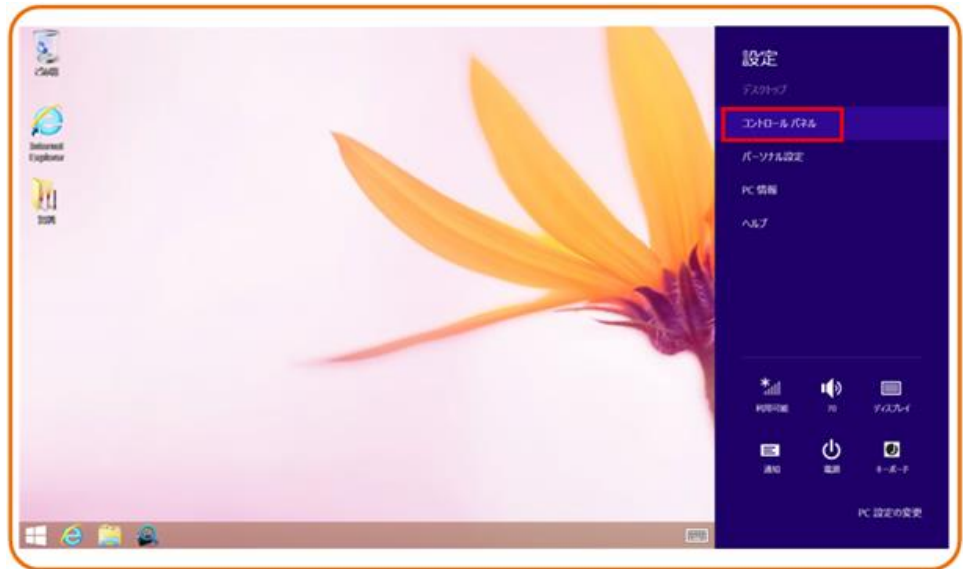
- b. デスクトップ画面に入り、画面の右下または右上にマウスポインターを移動すると、チャームが表示されます。チャームから**設定ボタン**を選択します。

図 5-7 設定ボタン



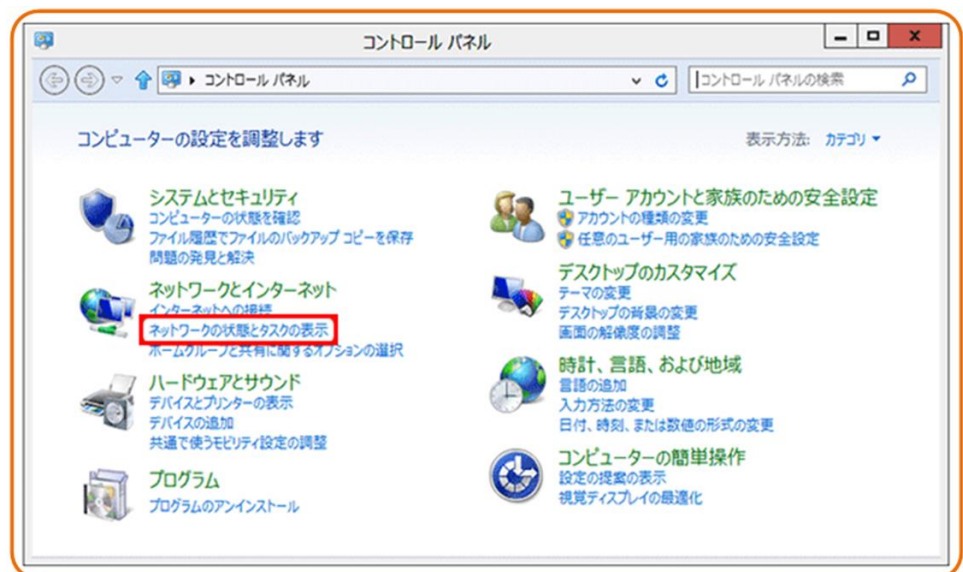
- c. **設定画面**からコントロールパネルを選択します。

図 5-8 コントロールパネルボタン



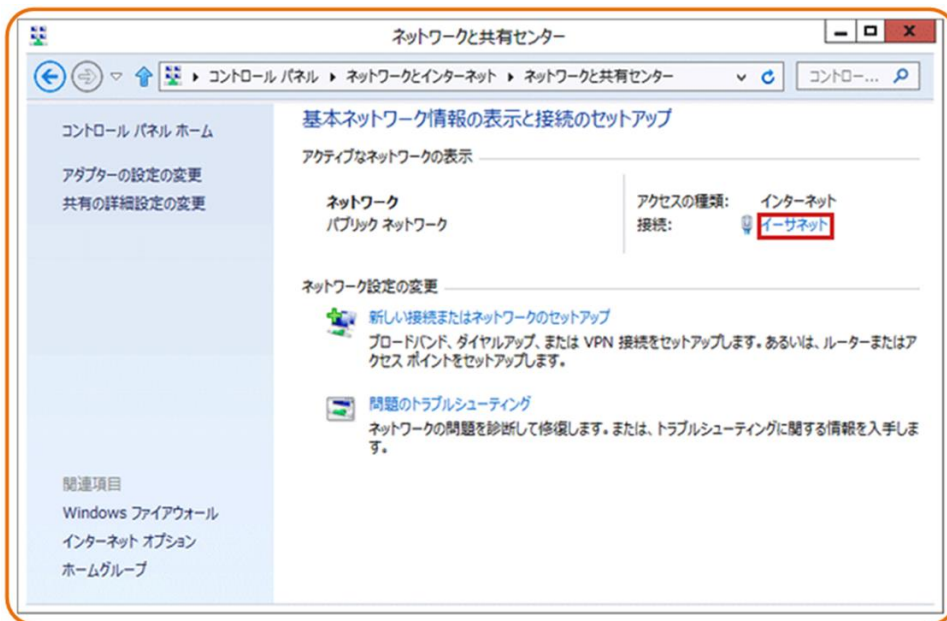
- d. コントロールパネルを表示したら、図 5-9 に示すようにネットワークとインターネットの下のネットワークの状態とタスクの表示を選択します。

図 5-9 コントロール パネルウィンドウ



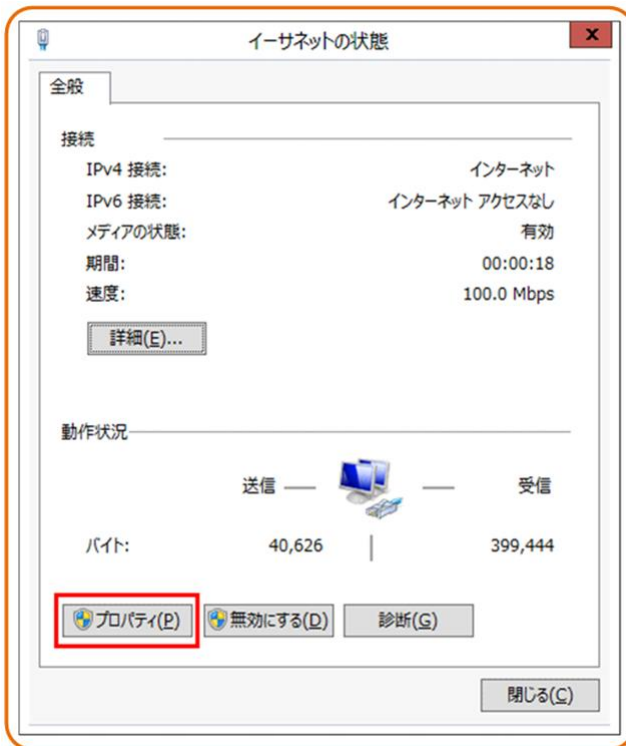
- e. ネットワークの状態とタスクの表示を選択したら、図 5-10 に示すようなネットワークと共有センターウィンドウが表示されます。

図 5-10 ネットワークと共有センターウィンドウ



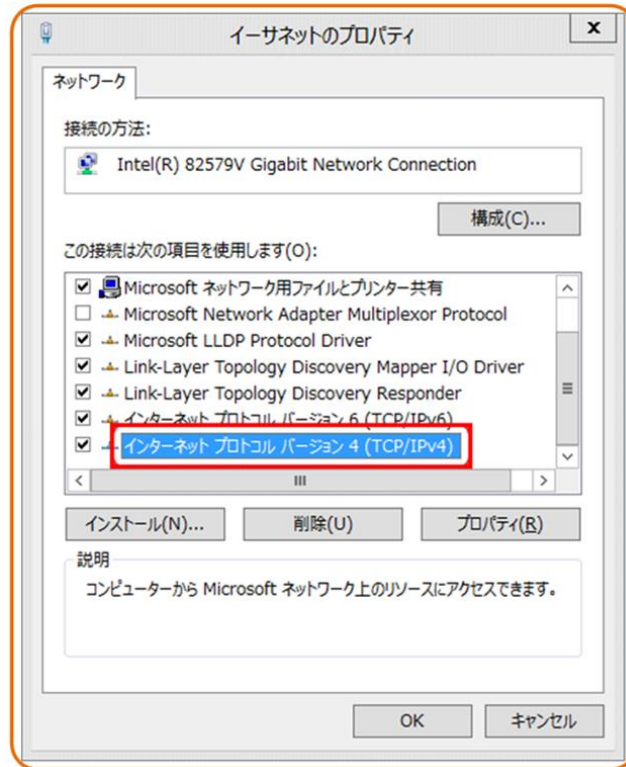
- f. アクティブなネットワークの表示エリアのイーサネットを選択します。図 5-11 に示すようなイーサネットの状態ダイアログボックスが表示されます。

図 5-11 イーサネットの状態ウィンドウ



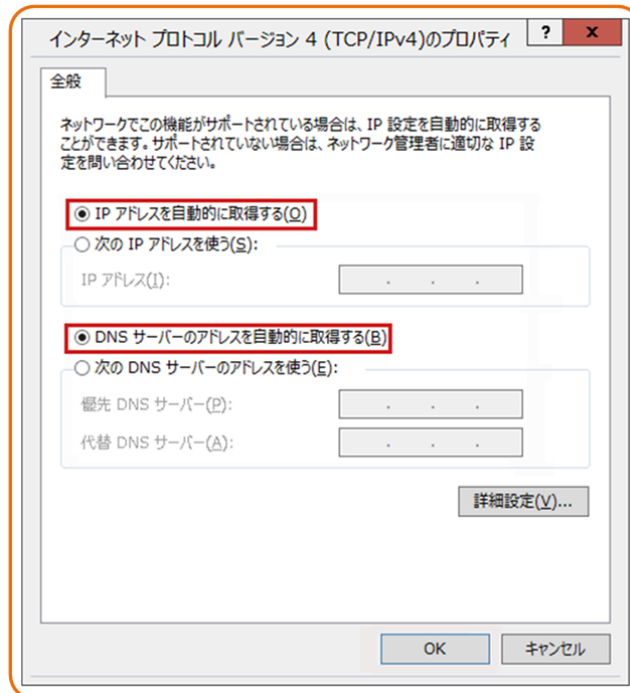
- g. プロパティを選択すると、図 5-12 のようなイーサネットのプロパティダイアログボックスが表示されます。

図 5-12 イーサネットのプロパティダイアログボックス



- h. ネットワークタブを選択して、この接続は次の項目を使用しますリストボックス内のインターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)をダブル選択します。図 5-13 のようなインターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティダイアログボックスが表示されます。

図 5-13 インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティダイアログボックス




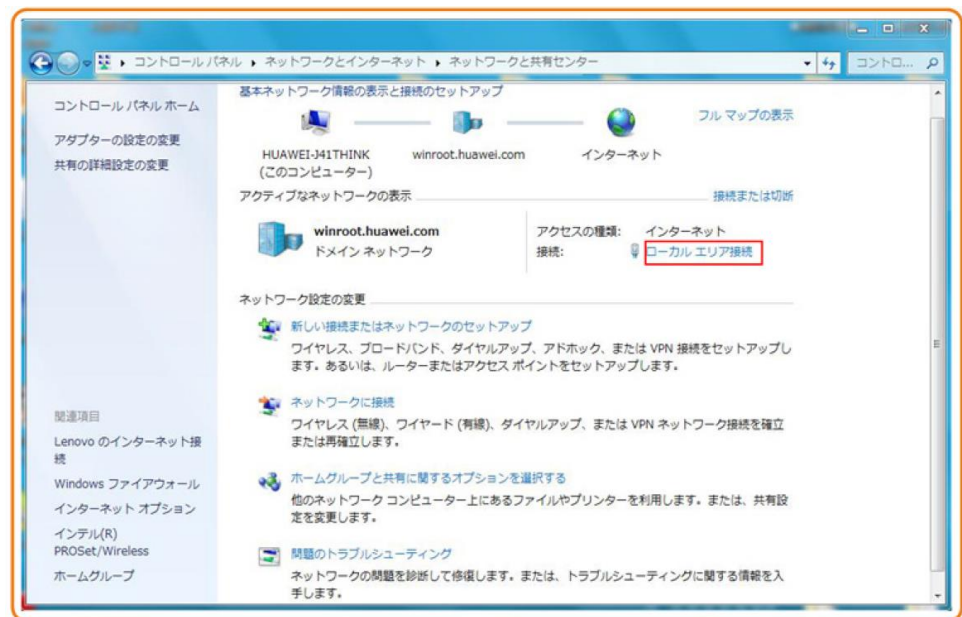
- i. 全般タブを選択して、図 5-13 に示すような IP アドレスを自動的に取得すると DNS サーバのアドレスを自動的に取得するを選択します。
 - j. OK を選択して設定を完了して、イーサネットの状態ダイアログボックスに戻ります。
 - k. OK を選択して設定を完了します。
- Windows 7 のケース
 - l. OS にログインした後、スタートボタン(デスクトップの左下隅の  ボタン)を選択し、コントロール パネルを選択すると、図 5-14 に示すようなコントロール パネルウィンドウが表示されます。

図 5-14 コントロール パネルダイアログボックス



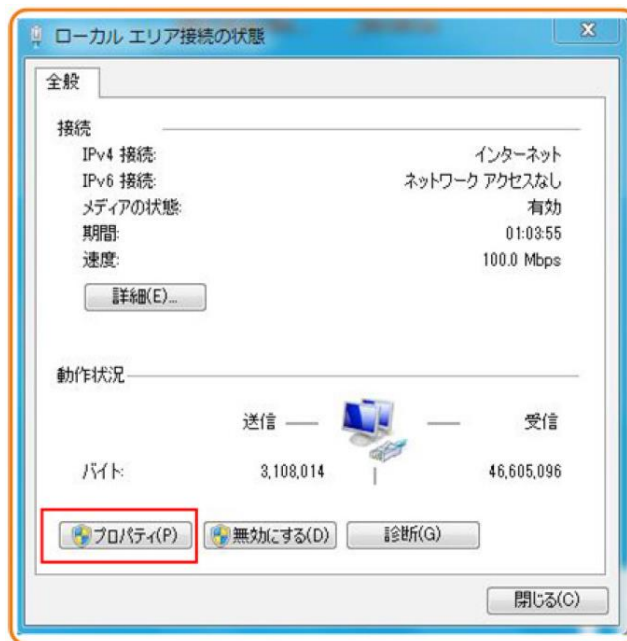
- m. ネットワークとインターネットの下のネットワークの状態とタスクの表示を選択します。図 5-15 に示すようなネットワークと共有センターウィンドウが表示されます。

図 5-15 ネットワークと共有センターウィンドウ



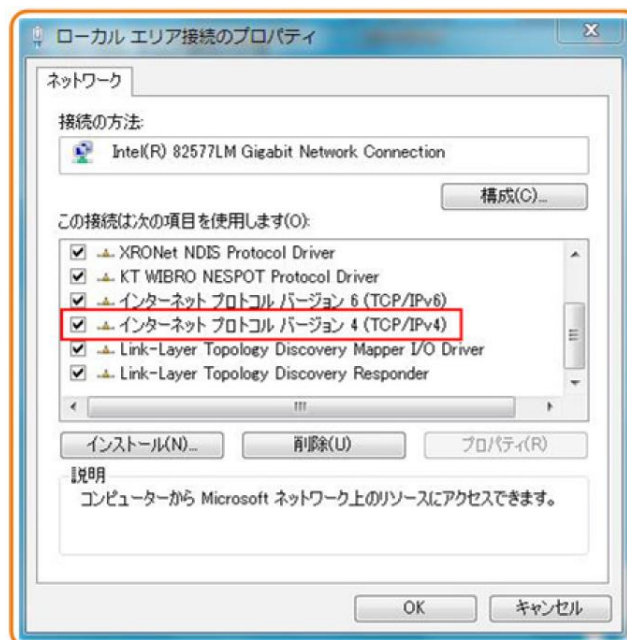
- n. アクティブなネットワークの表示エリアのローカル エリア接続を選択します。図 5-16 に示すようなローカル エリア接続の状態ダイアログボックスが表示されます。

図 5-16 ローカル エリア接続の状態ダイアログボックス



- o. プロパティを選択すると、図 5-17 のようなローカル エリア接続のプロパティダイアログボックスが表示されます。

図 5-17 ローカル エリア接続のプロパティダイアログボックス

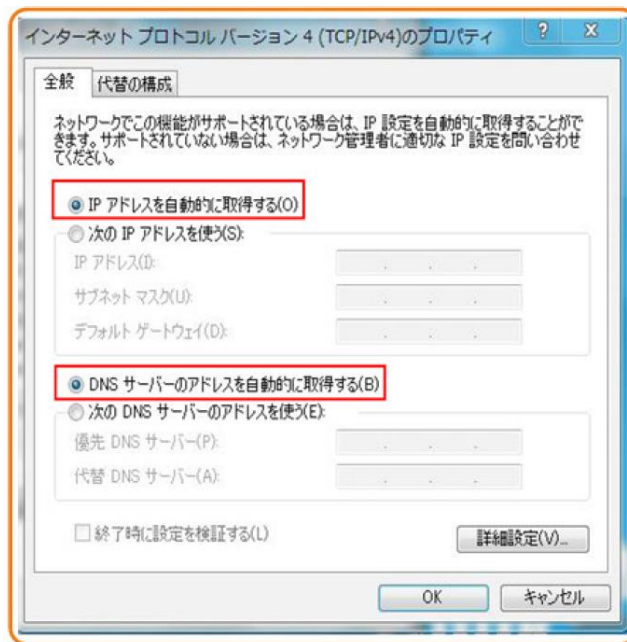


- p. ネットワークタブを選択して、この接続は次の項目を使用しますリストボックス内のインターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)をダブル選択します。図

5-18 のようなインターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティダイアログボックスが表示されます。

- q. **全般**タブを選択して、図 5-18 に示すような **IP アドレスを自動的に取得すると DNS サーバのアドレスを自動的に取得する**を選択します。

図 5-18 インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティダイアログボックス



- r. **OK** を選択して設定を完了して、**ローカルエリア接続の状態**ダイアログボックスに戻ります。
- s. **OK** を選択して設定を完了します。
- Mac OS X 10.8.2
 - a. OS にログインした後、デスクトップ下部の**システム環境設定**を選択すると、図 5-19 と図 5-20 に示すような**システム環境設定**ウィンドウが表示されます。

図 5-19 システム環境設定ラベル

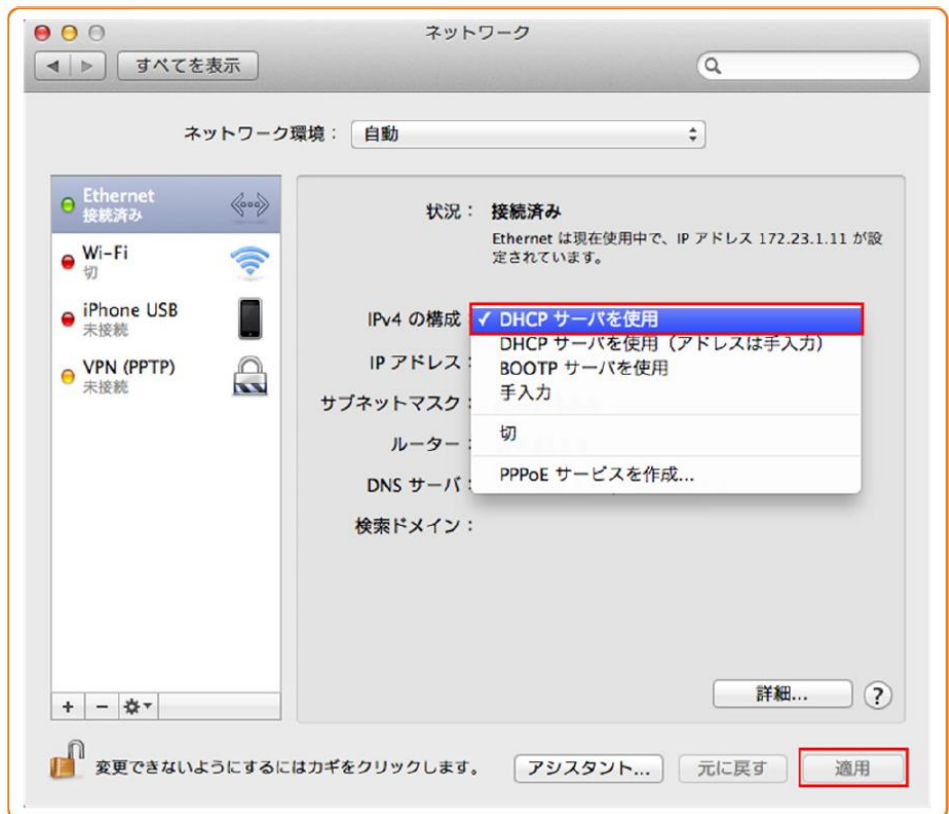


図 5-20 システム環境設定ウィンドウ



- b. インターネットとワイヤレスエリアのネットワークを選択します。図 5-21 に示すようなネットワークダイアログボックスが表示されます。
- c. 図 5-21 に示すように IPv4 の構成メニューから DHCP サーバを使用を選択し、適用を選択して設定を完了します。

図 5-21 ネットワークダイアログボックス



- Mac OS X 10.13.6
 - d. OS にログインした後、デスクトップ下部のシステム環境設定を選択すると、図 5-22 と図 5-23 に示すようなシステム環境設定ウィンドウが表示されます。

図 5-22 システム環境設定ラベル

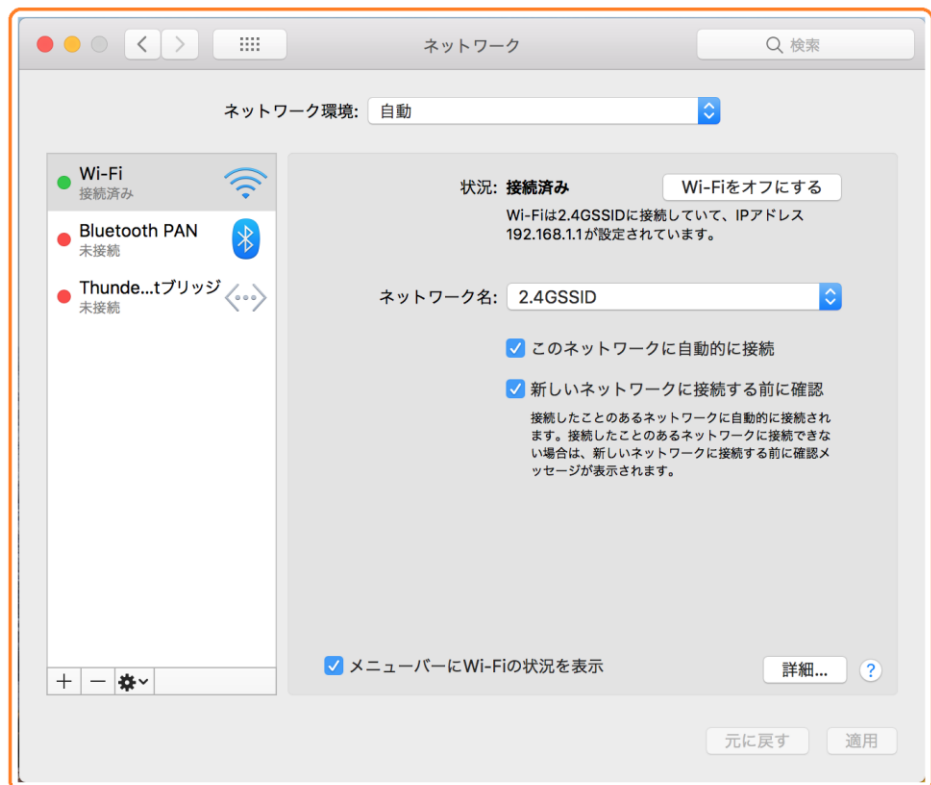


図 5-23 システム環境設定ウィンドウ



- e. インターネットとワイヤレスエリアのネットワークを選択します。図 5-24 に示すようなネットワークダイアログボックスが表示されます。
- f. 図 5-24 に示すように、HN8255Ws の WiFi に接続してください。

図 5-24 ネットワークダイアログボックス



ステップ 3 Web ページにログインします。

1. Web ブラウザのアドレスバーに HN8255Ws の管理用 IP アドレスを入力して、Enterを押します。ログイン画面が表示されます。デフォルトの IP アドレスは 192.168.1.1です。ログイン画面で言語を選択し、ユーザー名とパスワード(デフォルトのユーザー名: admin、デフォルトのパスワード: admin)を入力して、「ログイン」を選択します。

図 5-25 ログイン画面



2. 以下の画面で新しいパスワードを設定してください。

アカウント管理

このページでは現在のログインユーザーのパスワードを変更し、セキュリティを強化したり覚えやすいパスワードを設定したりできます。

ログインパスワードがデフォルトのままです。すぐに変更してください。

ユーザー名:	admin	
元のパスワード:	<input type="password"/>	1.パスワードは少なくとも6文字で設定してください。 2.パスワードは次の条件を少なくとも2つ組み合わせて設定してください。 数字、大文字、小文字 特殊文字 (~!@#\$%^&*()-_+=\ []{};:'"<, .>/?) 3.パスワードにはユーザー名やユーザー名の順序を逆にしたものは使用できません。
新しいパスワード:	<input type="password"/>	
パスワードの確認:	<input type="password"/>	



注記

上の図は、例として使用されています。照会結果は、実際の状況によって異なります。

Web ページにログインしてから 5 分間何も操作が実行されないと、タイムアウトにより自動的にログアウトされ、ログイン待ち状態に戻ります。

間違ったユーザー名とパスワードを 3 回続けて入力すると、システムがロックされます。1 分後に自動的にシステムのロックが解除されます。

初期のユーザー名とパスワードを使用して Web ページにログイン後、パスワードを変更してください。

6 Web ページでのインターネットアクセスサービスの設定

本章では、Web ページでインターネットアクセスサービスを設定する方法の例を示します。

事前の要件

- Web ページにログインしてサービス設定を行うための環境設定が完了しており、Web ページへのログインに成功していること。詳細は、[5 管理画面へのログイン方法](#)をご参照ください。
- ユーザーPC がモジュラーケーブルで HN8255Ws の LAN ポートに接続されていること。詳細は、[4.2 電源ケーブルの接続およびボタン設定](#)をご参照ください。

はじめに

インターネットアクセスサービス: ONU 上で IPoE が実施されます。この際の IP アドレスは、ONU の DHCP IP アドレスプールから割り当てられます。ONU はまずキャリアネットワークデバイスに接続され、その後レイヤ 3 ルーティングモードで上位レイヤネットワークに接続され、高速インターネットアクセスサービスを提供します。

手順

ステップ 1 LAN ポートのパラメータを設定します。

上部のメニューより[LAN]タブを選択し、左側のナビゲーションツリーから図 6-1 に示すように、[LAN ホスト設定]を選択します。

図 6-1 LAN の基本設定

LANホスト設定

このページではLAN側管理のIPアドレスの設定ができます。LAN側管理IPアドレスを変更した後、DHCPサーバ上のプライマリアドレスプールが必ず新しいLAN IPアドレスと同一のサブネット上にあるようにしてください。それ以外の状況では、DHCPサーバが正確に機能しません。

プライマリアドレス

プライマリIPアドレス: *

プライマリアドレスのサブネットマスク: *

ステップ 2 DHCP サーバのパラメータを設定します。

上部のメニューより[LAN]タブを選択し、左側のナビゲーションツリーから[DHCP サーバ設定]を選択します。右側のメイン表示部分で、ゲートウェイとして機能する ONT の、LAN 側の DHCP アドレスプールを設定できます。設定後、図 6-2 に示すように、LAN ポートに接続された PC はアドレスプールから IP アドレスを自動的に取得できます。

図 6-2 DHCP サーバ設定

DHCPサーバ設定

このページでは、LAN側デバイスのDHCPサーバのパラメータを設定し、IPアドレスを取得することができます。

プライマリアドレスプール

プライマリDHCPサーバを有効にする:

LANホストIPアドレス: 192.168.1.1

サブネットマスク: 255.255.255.0

IPアドレスの開始: *(LANホストのIPアドレスと同一のサブネット上にある必要があります。)

IPアドレスの終了: *

リース時間: 日

プライマリDNSサーバ:

セカンダリDNSサーバ:

結果

インターネットアクセスサービス: PC は DHCP モードで ONU によって割り当てられた IP アドレスを自動で取得します。IPoE が ONU 上で正常に実行されると、ユーザーはインターネットにアクセスできるようになります。

7 Web ページでの Wi-Fi アクセスサービスの設定

本章では、Web ページで Wi-Fi アクセスサービスを設定する方法の例を示します。

事前の要件

- Web ページにログインしてサービス設定を行うための環境設定が完了しており、Web ページへのログインに成功していること。詳細は、5 管理画面へのログイン方法をご参照ください。
- Wi-Fi 機能を搭載した端末が用意されていること。

はじめに

Wi-Fi ワイヤレスアクセスサービスは、レイヤ 3 ルーティング Wi-Fi サービスです。

サービスセット ID (SSID) 検索が PC 上で実行されます。認証に成功すると、PC は ONU の DHCP アドレスプールから IP アドレスを割り当てられ、IPoE が ONU 上で実行されます。

HN8255Ws は 2.4GHz および 5GHz Wi-Fi 機能をサポートします。2.4GHz Wi-Fi と 5GHz Wi-Fi の設定方法は同じです。本書では例として、2.4GHz Wi-Fi の設定を使用します。

手順

ステップ 1 2.4GHz Wi-Fi サービスを設定します。

左側のナビゲーションメニューより、**WLAN** タブを選択し、左側のナビゲーションツリーから **2.4G 基本ネットワーク設定** を選択します。右側のメイン表示部分で、図 7-1 に示すように、2.4G Wi-Fi ネットワークの基本パラメータを設定します。

図 7-1 2.4G 基本ネットワーク設定

2.4G基本ネットワーク設定

このページでは、2.4GHz帯ワイヤレスネットワークの基本パラメータの設定ができます。2.4GHz帯ワイヤレスネットワークが無効化されている場合、このページは空白です。

警告:

1. ワイヤレスネットワークパラメータを変更するとワイヤレスネットワークサービスが一時的に中断される可能性があります。
2. セキュリティ保護のため、WPA2または WPA/WPA2認証モードを使用することをお勧めします。

WLANの有効化

新規作成 削除

SSIDインデックス	SSID名	SSIDの状態	接続デバイス数	SSIDのブロードキャスト	セキュリティ設定
<input type="checkbox"/> 1	2.4GSSID	有効	32	有効	設定済み

SSID設定詳細

SSID名: * (1-32文字)

SSIDの有効化:

接続デバイス数: * (1-32)

SSIDのブロードキャスト:

WMMの有効化:

認証モード:

暗号化モード:

WPA PreSharedKey: 非表示 * (8-63文字または64文字(16進文字))

WPAグループキー更新間隔: *(600~86400秒)

WPSを有効にする:

WPSモード:

PBC:

適用 キャンセル

表 7-1 で、2.4G 基本ワイヤレスネットワーク設定について説明します。

表 7-1 2.4G 基本ワイヤレスネットワーク設定

パラメータ	説明
WLAN の有効化	ワイヤレスネットワークを有効にするかどうかを指定します。以下のパラメータは、ワイヤレスネットワークが有効になっている場合にのみ設定できます。
SSID 名	ワイヤレスネットワークの名前を指定します。これは、各種ワイヤレスネットワークを区別するために使用されます。タブ文字無しで、最大 32 文字から構成されます。
SSID の有効化	接続を有効にするかどうかを指定します。
接続デバイス数	STA の数を指定します。1 ~ 32 の範囲で指定します。
SSID のブロードキャスト	ブロードキャストを有効にするか非表示にするかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> このオプションボックスを選択した場合、SSID のブロードキャスト機能が有効になるように指定されます。ONT は、SSID、すなわちワイヤレスネットワークの名前を定期的にブロードキャストします。このような方法で、STA はワイヤレスネットワークを検索できます。 このオプションボックスを選択しなかった場合は、SSID のブロードキャスト機能が無効になるように指定されます。SSID を非表示にすると、STA はワイヤレスネットワークを検索できなくなり、SSID は要求しない限り取得できなくなります。
WMM の有効化	Wi-Fi マルチメディアを有効にするかどうかを指定します。
認証モード	ワイヤレスネットワークへのアクセスを要求する STA の認証モードを指定します。このモードは、オープン、共有、WPA Pre-Shared Key、WPA2 Pre-Shared Key、WPA/WPA2 Pre-Shared Key、WPA エンタープライズ、WPA2 エンタープライズ、WPA/WPA2 エンタープライズから指定できます。 これは、デフォルトでは、WPA/WPA2 Pre-Shared Key に設定されています。
暗号化モード	ワイヤレスネットワークへのアクセスを要求する STA の暗号化モードを指定します。暗号化モードと暗号化パラメータは、認証モードによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> 認証モードがオープンに設定されている場合、暗号化モードは None または WEP に設定できます。 認証モードが共有に設定されている場合、暗号化モードは WEP に設定できます。 認証モードが WPA Pre-Shared Key、WPA2 Pre-Shared Key、WPA/WPA2 Pre-Shared Key、WPA エンタープライズ、WPA2 エンタープライズ、WPA/WPA2 エンタープライズから指定されている場合、暗号化モードは WPA2 Pre-Shared Key、WPA2 エンタープライズ、WPA/WPA2 エンタープライズに設定できます。

パラメータ	説明
	エンタープライズに設定されている場合、暗号化モードは AES、TKIP、TKIP&AES に設定できます。
WPA PreSharedKey	WPA 共有キーを指定します。有効な値は、8 ～ 63 の ASCII コードまたは 64 の 16 進数字から構成されます。
WPA グループキー更新 間隔	WPA グループキーを生成する間隔を指定します。単位は秒 です。有効な値の範囲は 600 ～ 86400 です。
WPS を有効にする	WPS を有効にするかどうかを指定します。
WPS モード	WPS モードを指定します。有効な値は、PBC、PIN、AP-PIN です。
PBC	WPS モードが PBC に設定されている場合は、WPS を起動 を選択して PBC モードを開始することができます。

左側のナビゲーションメニューより、**WLAN** タブを選択し、左側のナビゲーションツリーから **2.4G 詳細ネットワーク設定** を選択します。右側のメイン表示部分で、図 7-2 に示すように、2.4G Wi-Fi ネットワークの拡張パラメータを設定します。



注記

WLAN の有効化が **2.4G 基本ネットワーク設定** で選択されていない場合、このページは空白になります。

図 7-2 2.4G 詳細ネットワーク設定

2.4G詳細ネットワーク設定

このページでは、2.4GHz帯ワイヤレスネットワークの拡張パラメータの設定ができます。2.4GHz帯ワイヤレスネットワークが無効化されている場合、このページは空白です。

警告:
ワイヤレスネットワークパラメータを変更するとワイヤレスネットワークサービスが一時的に中断される可能性があります。

詳細設定

送信出力:	<input type="text" value="100%"/>	
チャンネル:	<input type="text" value="自動"/>	
チャンネル幅:	<input type="text" value="Auto 20/40 MHz"/>	
モード:	<input type="text" value="802.11b/g/n"/>	
DTIM間隔:	<input type="text" value="1"/>	(1~255、デフォルト: 1)
ビーコン間隔:	<input type="text" value="100"/>	(20~1000ミリ秒、デフォルト: 100)
RTS閾値:	<input type="text" value="2346"/>	(1~2346バイト、デフォルト: 2346)
フラグメント閾値:	<input type="text" value="2346"/>	(256~2346バイト、デフォルト: 2346)

表 7-2 で、ワイヤレスネットワークの拡張パラメータについて説明します。

表 7-2 ワイヤレスネットワークの拡張パラメータ

パラメータ	説明
送信出力	無線信号の送信光出力を指定します。これは、20%、40%、60%、80%、100%に設定できます。値が大きくなればなるほど、無線信号のカバレッジが向上します。
チャンネル	ワイヤレスネットワークのチャンネルを指定します。チャンネルは、自動の値によって異なります。
チャンネル幅	無線のチャンネル幅を指定します。これは、Auto 20/40 MHz、20 MHz、40 MHz に設定できます。
モード	サポートされるワイヤレスネットワークモードを指定します。これは、802.11b、802.11g、802.11b/g、802.11b/g/n に設定できます。
DTIM 間隔	DTIM の送信間隔を指定します。値の範囲は 1 ~ 255 で、デフォルト値は 1 です。

パラメータ	説明
ビーコン間隔	ビーコンの送信間隔を指定します。ビーコンは、他のアクセスポイントデバイスまたはネットワーク制御デバイスとの通信に使用されます。値の範囲は 20ms ~ 1000ms で、デフォルト値は 100ms です。
RTS 閾値	送信要求 (RTS) の閾値を指定します。これは、無線 LAN のデータ伝送での競合を回避するために使用されます。 RTS 閾値が小さければ小さいほど、RTS パケットの伝送周波数が高くなり、中断や競合からのシステム復旧が早くなります。ただし、使用される帯域幅が大きくなり、これは他のネットワークデータパケットのスループットに影響します。 値の範囲は 1 バイト ~ 2346 バイトで、デフォルト値は 2346 バイトです。
フラグメント閾値	フラグメント閾値を指定します。パケットのサイズがこの閾値よりも大きい場合、パケットは分割されます。フラグメントの伝送が中断されると、正常に伝送されなかった部分のみ、再伝送される必要があります。 値の範囲は 256 バイト ~ 2346 バイトで、デフォルト値は 2346 バイトです。

ステップ 2 2.4GHz Wi-Fi 接続のステータスを確認します。

左側のナビゲーションメニューより、**ステータスタブ**を選択し、左側のナビゲーションツリーから **WLAN 情報**を選択します。それにより、右側のメイン表示部分で、WLAN 情報、WLAN パケット統計情報、SSID 情報などの情報を、図 7-3 に示すように照会できます。

図 7-3 Wi-Fi 情報

WLAN情報

このページではWLAN情報、WLANパケット統計情報、SSID情報を照会することができます。

[ワンクリック診断](#)

2.4GHz帯ワイヤレスネットワーク情報
 5GHz帯ワイヤレスネットワーク情報

WLAN情報

WLANステータス: 有効

WLANチャンネル: 2

WLANパケット統計情報

SSIDインデックス	SSID名	受信(RX)				送信(TX)			
		バイト	パケット	エラー	削除済み	バイト	パケット	エラー	削除済み
1	HN8255Ws-939A-bg	0	0	0	0	0	0	0	1991

SSID情報

SSIDインデックス	SSID名	セキュリティ設定	認証モード	暗号化モード
1	HN8255Ws-939A-bg	設定済み	WPA/WPA2 PreSharedKey	TKIP&AES

STA情報

MACアドレス	SSID名	接続時間(秒)	送信速度(Mbit/s)	受信速度(Mbit/s)	信号強度(dBm)	ノイズ(dBm)	S/N比(dB)	信号品質(dBm)
---------	-------	---------	--------------	--------------	-----------	----------	----------	-----------

結果

レイヤ 3 ルーティング Wi-Fi サービス: SSID 無線信号は PC によって検出できます。ユーザーが認証キーを入力し、認証に成功すると、PC は ONU の DHCP IP アドレスプールから割り当てられた IP アドレスを取得できます。IPoE が ONU 上で正常に実行されると、ユーザーはインターネットにアクセスできます。

注記

Wi-Fi 端末に設定するセキュリティモードおよび暗号化モードは、ONU のセキュリティモードおよび暗号化モードと同じでなければなりません。Wi-Fi 端末に TKIP&AES または AES 暗号化モードがない場合、Wi-Fi 端末の Wi-Fi ドライバが初期バージョンのものである可能性があります。このような場合、ドライバをバージョンアップしてください。

8 Web ページのリファレンス

本章について

ここでは、Web ページのパラメータの使用法と意味について説明します。

Web ページのパラメータを設定したり表示したりするには、Web ページにログインします。Web ページへのログイン方法についての詳細は、5 管理画面へのログイン方法をご参照ください。

7.1 高速設定

ここでは、ONT を簡単に設定する方法について説明します。

7.2 ホームページ

ここでは、Wi-Fi 設定、宅内共有、ネットワーク状態の確認など、ONT の共通設定について説明します。

7.3 ワンクリック診断

ここでは、ONT のネットワーク障害を迅速に診断する方法について説明します。

7.4 システム情報

ここでは、ONT に関する情報 (ETH ポート情報、光学情報、ユーザーデバイス情報など) を Web ページから照会する方法を説明します。

7.5 詳細設定

ここでは、Web ページから機能を設定する方法を説明します。LAN またはセキュリティ設定などについて説明します。

8.1 高速設定

ここでは、ONT を簡単に設定する方法について説明します。

一般ユーザー



注記

- このページは、admin ユーザーが ONT Web ページに初めてログインしたときに表示されます。それ以外の場合にこのページに移動するには、ホームページの右上部の**高速設定**をクリックする必要があります。
- アカウント管理操作の詳細については、8.5.6.5 アカウント管理を参照してください。

8.2 ホームページ

ここでは、Wi-Fi 設定、宅内共有、ネットワーク状態の確認など、ONT の共通設定について説明します。

8.3 ワンクリック診断

ここでは、ONT のネットワーク障害を迅速に診断する方法について説明します。

1. 左側のナビゲーションツリーから、**ワンクリック診断**を選択します。次に、右側のページの**ワンクリック診断**をクリックして、図 8-1 に示すようにネットワーク状態を診断します。

図 8-1 ワンクリック診断



2. 図 8-2 は診断結果を示しています。

図 8-2 診断結果



注記

この診断方式はプロフェッショナルエンジニア向けのものであり、データ通信サービスに影響を与えます。したがって、この診断方式を使用するときには慎重に行ってください。

障害を再診断する必要がある場合、**再診断**をクリックします。

8.4 システム情報

ここでは、ONTに関する情報(ETHポート情報、光学情報、ユーザーデバイス情報など)をWebページから照会する方法を説明します。

8.4.1 デバイス情報

左側のナビゲーションツリーで、**システム情報 > デバイス情報**を選択します。右側のメイン表示部分に、図 8-3 に示すように、製品名、ハードウェアのバージョン、ソフトウェアのバージョンが表示されます。

図 8-3 デバイス情報



8.4.2 WAN 情報

左側のナビゲーションツリーで、**システム情報** > **WAN 情報**を選択します。右側のメイン表示部分に、図 8-4に示すように、WAN インターフェースの状態、IP アドレスの取得方法、IP アドレス、およびサブネットマスクが表示されます。

図 8-4 WAN 情報

WAN情報

このページでは、WANポートの接続と回線の状態を確認することができます。

IPv4情報

WAN名	状態	IPアドレス	接続
1_TR069_INTERNET_R_VID_10	切断	--	AlwaysOn

WAN情報

MACアドレス: 2C:55:D3:EF:1D:51

NAT: 有効

IP取得方法: DHCP

IPアドレス/サブネットマスク: --

ゲートウェイ: --

DNSサーバ: --

リース時間: --

残りのリース時間: --

NTPサーバ: --

タイムゾーン情報: --

接続時間 (dd:hh:mm:ss): --

IPv6情報

WAN名	状態	プレフィックス
1_TR069_INTERNET_R_VID_10	切断	--

WAN情報

MACアドレス: 2C:55:D3:EF:1D:51

DNSサーバ: --

プレフィックス: --

プレフィックス取得方法: PrefixDelegation

プレフィックス優先耐用期間: --

プレフィックス有効耐用期間: --

プレフィックスの残り有効耐用期間: --

接続時間 (dd:hh:mm:ss): --

8.4.3 光学情報

左側のナビゲーションツリーで、**システム情報 > 光学情報**を選択します。図 8-5 に示すように、光モジュールの光学信号ステータス、送信光出力、受信光出力を表示できます。

図 8-5 光学情報

光学情報

このページでは光モジュールの情報を照会することができます。

ONT情報

	現在値
光信号送信ステータス:	--
送信光出力:	-- dBm
受信光出力:	-- dBm
動作電圧:	-- mV
バイアス電流:	-- mA
動作温度:	-- °C

8.4.4 ETH ポート情報

左側のナビゲーションツリーで、**システム情報** > **ETH ポート情報**を選択します。右側のメイン表示部分に、図 8-6 に示すように、ETH ポートの二重モード、速度、ステータスが表示されます。

図 8-6 ETH ポート情報

Ethポート情報

このページでは、ユーザー側のEthernetポート情報を照会できます。

イーサネットポートのステータス

ポート	ステータス			受信(RX)		送信(TX)	
	モード	速度	リンク	バイト	パケット	バイト	パケット
1	全二重	100 Mbit/s	アップ	5286086	38983	37083495	44190
2	--	--	ダウン	0	0	1209134	10592
3	--	--	ダウン	0	0	1209134	10592
4	--	--	ダウン	0	0	0	0
5	--	--	ダウン	0	0	1209134	10592

8.4.5 WLAN 情報

左側のナビゲーションツリーで、**システム情報** > **WLAN 情報**を選択します。次に、右側のメイン表示部分で、図 8-7 に示すように、Wi-Fi ポートのステータス、Wi-Fi パケット統計、SSID などの情報を照会できます。

図 8-7 WLAN 情報

WLAN情報

このページではWLAN情報、WLANパケット統計情報、SSID情報を照会することができます。

[ワンクリック診断](#)

2.4GHz帯ワイヤレスネットワーク情報
 5GHz帯ワイヤレスネットワーク情報

WLAN情報

WLANステータス: 有効

WLANチャンネル: 2

WLANパケット統計情報

SSIDインデックス	SSID名	受信(RX)				送信(TX)			
		バイト	パケット	エラー	削除済み	バイト	パケット	エラー	削除済み
1	HN8255Ws-939A-bg	0	0	0	0	0	0	0	1991

SSID情報

SSIDインデックス	SSID名	セキュリティ設定	認証モード	暗号化モード
1	HN8255Ws-939A-bg	設定済み	WPA/WPA2 PreSharedKey	TKIP&AES

STA情報

MACアドレス	SSID名	接続時間(秒)	送信速度(Mbit/s)	受信速度(Mbit/s)	信号強度(dBm)	ノイズ(dBm)	S/N比(dB)	信号品質(dBm)
---------	-------	---------	--------------	--------------	-----------	----------	----------	-----------

 **注記**

2.4G の WLAN 情報を照会するには、**2.4GHz 帯ワイヤレスネットワーク情報**を選択します。5G の WLAN 情報を照会するには、**5GHz 帯ワイヤレスネットワーク情報**を選択します。

8.5 詳細設定

ここでは、Web ページから機能を設定する方法を説明します。LAN またはセキュリティ設定などについて説明します。

8.5.1 LAN 設定

このトピックでは、Web ページから LAN ポートまたは DHCP パラメータを設定する方法について説明します。

8.5.1.1 LAN ホスト設定

1. 左側のナビゲーションツリーで、**詳細設定 > LAN 設定 > LAN ホスト設定**を選択します。右側のメイン表示部分で、図 8-8.に示すように、プライマリアドレスの管理 IP アドレスを設定します。

図 8-8 LAN ホスト設定

LANホスト設定

このページではLAN側管理のIPアドレスの設定ができます。LAN側管理IPアドレスを変更した後、DHCPサーバ上のプライマリアドレスプールが必ず新しいLAN IPアドレスと同一のサブネット上にあるようにしてください。それ以外の状況では、DHCPサーバが正確に機能しません。

プライマリアドレス

プライマリIPアドレス: *

プライマリアドレスのサブネットマスク: *



注記

LAN ポートに接続されているデバイスの IP アドレスは、管理 IP アドレスと同一のサブネットにある必要があります。こうすることで、Web ページから ONT にアクセスし、照会と管理を行うことができます。

2. **適用**をクリックします。

8.5.1.2 DHCP サーバ設定

1. 左側のナビゲーションツリーで、**詳細設定 > LAN 設定 > DHCP サーバ設定**を選択します。右側のメイン表示部分で、ゲートウェイとして機能する ONT の、LAN 側の DHCP アドレスプールを設定できます。設定後、図 8-9 に示すように、LAN ポートに接続された PC はアドレスプールから IP アドレスを自動的に取得できます。

図 8-9 DHCP サーバ設定

DHCPサーバ設定

このページでは、LAN側デバイスのDHCPサーバのパラメータを設定し、IPアドレスを取得することができます。

プライマリアドレスプール

プライマリDHCPサーバを有効にする:

LANホストIPアドレス: 192.168.1.1

サブネットマスク: 255.255.255.0

IPアドレスの開始: *(LANホストのIPアドレスと同一のサブネット上にある必要があります。)

IPアドレスの終了: *

リース時間: 日

プライマリDNSサーバ:

セカンダリDNSサーバ:

2. **適用**をクリックします。

表 8-1 で、DHCP サーバに関するパラメータについて説明します。

表 8-1 DHCP サーバに関するパラメータ

パラメータ	説明
プライマリ DHCP サーバを有効にする	プライマリ DHCP サーバを有効にするかどうかを指定します。このチェックボックスを選択すると、プライマリ DHCP サーバを設定できます。
IP アドレスの開始	プライマリ DHCP サーバ上の IP アドレスプールの開始 IP アドレスを指定します。
IP アドレスの終了	有効な DHCP サーバ上の IP アドレスプールの終了 IP アドレスを指定します。
リース時間	有効な DHCP サーバ上の IP アドレスプールのリース時間を指定します。分、時間、日、週を選択できます。
プライマリ DNS サーバ	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。
セカンダリ DNS サーバ	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

8.5.1.3 DHCP スタティック IP 設定

1. **詳細設定** > **LAN 設定** タブをクリックして、左側のナビゲーションツリーから **DHCP スタティック IP 設定** を選択します。右側のペインで、**新規作成** をクリックします。表示されたダイアログボックスで、図 8-10 に示すように、**MAC アドレス** と **IP アドレス** を設定します。

図 8-10 DHCP スタティック IP 設定

DHCPスタティックIP設定

このページでは、指定のMACアドレスにDHCPを介して割り当てられた予約済みIPアドレスを設定できません。

	MACアドレス	IPアドレス
	----	----

MACアドレス: (AA:BB:CC:DD:EE:FF)
 IPアドレス:

2. **適用**をクリックします。

8.5.1.4 DHCPv6 サーバ設定

1. 左側のナビゲーションツリーで、**詳細設定 > LAN 設定**タブを選択し、**DHCPv6 サーバ設定**を選択します。右側のペインで、図 8-11 に示すように、ゲートウェイとして機能する ONT の LAN 側のアドレスプールを設定できます。

図 8-11 DHCPv6 サーバ設定

DHCPv6サーバ設定

このページではIPv6関連機能のパラメータの設定ができます。

インターフェースのアドレス情報

IPv6アドレス: *

プレフィックス取得方法:

親プレフィックス:

子プレフィックスマスク: *(IPv6アドレス/64)

DNS情報

LAN側のDNSソース:

リソース割り当て情報

経路広告を有効にする:

DHCPv6サーバを有効にする:

リソース割り当てモード:

アドレス/プレフィックスの割り当て方法: DHCPv6 SLAAC

その他の情報の割り当て方法: DHCPv6 SLAAC

ULA情報

ULAモード:

2. **適用**をクリックします。

表 8-2 に DHCPv6 サーバ設定パラメータの一覧を示します。

表 8-2 DHCPv6 サーバ設定パラメータ

パラメータ	説明
IPv6 アドレス	IPv6 の管理 IP アドレスを指定します。デフォルト値は fe80::1 です。IPv4 の管理 IP アドレスを設定するには、 LAN 設定 > LAN ホスト設定 を選択します。

パラメータ	説明
親プレフィックス	親プレフィックスソースを指定します。通常、インターネット型 WAN ポートが親プレフィックスソースとして使用されています。デフォルトでは、最初に作成された IPv6 インターネット WAN ポートは親プレフィックスソースとして使用されています。値が空白のままになっていると、プレフィックスは取得されないため、サービスが利用できなくなる場合があります。
子プレフィックスマスク	LAN IP アドレスの割当に使用されます。このパラメータは取得されたプレフィックスが 64 ビットより短い場合に設定する必要があります。たとえば、取得されたプレフィックスが 2012:1111:2222::/48 で、子プレフィックスマスクが 0:1:1:3333::/64 に設定されている場合、生成される IPv6 アドレスプレフィックスは 2012:1111:2222:3333::/64 です。
アドレス/プレフィックスの割り当て方法	アドレス/プレフィックスの割り当て方法を指定します。DHCPv6 またはステートレスアドレス自動設定 (SLAAC) に設定できません。SLAAC に設定されている場合、 ULA モード を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • DHCPv6: LAN 側のホストが DHCPv6 モードでアドレスを取得するように指定します。 • SLAAC: LAN 側のホストが ND モードでアドレスを取得するように指定します。SLAAC モードでは、ホストによってアドレスが自動的に設定されます。このアドレス情報には、ローカルルータによって示されるプレフィックスおよびホストのインターフェース識別子が含まれます。リンク上にルータがない場合、ホストはローカルノードと通信するためにリンクローカルアドレスを自動的に設定する必要があります。
その他の情報の割り当て方法	その他の情報の割り当て方法を指定します。その他の情報とは、DNS パケットなど、パケットのペイロード内の IPv6 アドレスを指します。 <ul style="list-style-type: none"> • DHCPv6: アドレスが DHCPv6 モードで取得されるように指定します。 • SLAAC: アドレスが ND モードで取得されるように指定します。
ULA モード	一意のローカル IPv6 アドレス (ULA) モードを指定します。ULA アドレスはプレフィックス fd で始まります。予約済み IPv4 アドレスと同様に、予約済み IPv6 アドレスはプライベートネットワーク向けに使用されます。これにはプロトコルの一貫性を確保する目的があります。 <p>このパラメータは、手動、自動、または無効に設定できます。無効を推奨します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効: この機能が無効になります。 • 自動: アドレスが自動的に割り当てられます。 • 手動: アドレスを入力する必要があります。このオプションを

パラメータ	説明
	選択した場合、 プレフィックス、プレフィックス長、優先耐用期間、有効耐用期間 も設定する必要があります。
プレフィックス	ネットワークアドレス空間を指定します。IPv6 では、プレフィックスを使用してネットワークアドレス空間が指定されます。たとえば、2001:251:e000::/48 により、48 ビットのプレフィックスを使用してアドレス空間が示されます。
プレフィックス長	プレフィックス長を 10 進値で指定します。アドレス内にプレフィックスを形成するために使用される左端のビット数を指定します。アドレスプレフィックスは「IPv6 アドレス/プレフィックス長」の形式で表されます。たとえば、2001:251:e000::/48 により、48 ビットのプレフィックスを使用してアドレス空間が示されます。
優先耐用期間	有効なアドレスが優先状態にある期間を指定します。優先耐用期間が過ぎると、アドレスは無効になります。
有効耐用期間	アドレスが有効な期間を指定します。有効耐用期間は、優先耐用期間よりも長くなければなりません。有効耐用期間が過ぎると、アドレスは無効になります。

8.5.1.5 DHCPv6 スタティック IP 設定

詳細設定 > **LAN 設定** タブをクリックして、左側のナビゲーションツリーから **DHCPv6 スタティック IP 設定** を選択します。右側のペインで、インターフェース ID および IPv6 GUA アドレスを使用して、IP アドレスを MAC アドレスに割り当てることができます。図 8-12 に示すように、IPv6 GUA アドレスは、LAN 側で設定されるインターフェース ID とプレフィックスの組み合わせです。

図 8-12 DHCPv6 スタティック IP 設定

DHCPv6スタティックIP設定

このページでは予約済みインターフェースIDとIPv6 GUAアドレスを使用してMACにIPアドレスを割り当てることができます。IPv6 GUAアドレスはLAN側に設定されたインターフェースIDとプレフィックスの組み合わせです。LANアドレスの取得方法がSLAACに設定されている場合、このページの設定は有効になりません。

	MACアドレス	インターフェースID
----	----	----

MACアドレス: (AA:BB:CC:DD:EE:FF)

インターフェースID: (XXXX:XXXX:XXXX:XXXX)

8.5.1.6 DHCPv6 情報

左側のナビゲーションツリーで、**詳細設定 > LAN 設定 > DHCPv6 情報**を選択します。図 8-13 に示すように、右側のペインに、アドレスの総数、残りの IP アドレス、DUID、IPv6 アドレス/プレフィックスが表示されます。

図 8-13 DHCPv6 情報

DHCPv6情報

このページでは、DUID、IPv6アドレス、プレフィックス、残りリース時間など、DHCPv6の基本情報を照会することができます。

IPアドレス総数:	256
残りのIPアドレス:	256

DUID	IPv6アドレス/プレフィックス	残りリース時間
--	--	--

8.5.2 セキュリティ設定

ここでは、Web ページでのセキュリティの設定方法について説明します。

8.5.2.1 DoS 設定

1. **詳細設定 > セキュリティ設定**タブをクリックし、左側のナビゲーションツリーで **DoS 設定**を選択します。右側のメイン表示部分で、図 8-14 に示すように、DoS 攻撃防止設定を有効にするかどうかを指定します。

図 8-14 DoS 設定

DoS設定

このページではDoSパラメータの設定ができます。

SYNフラッド攻撃の防止:	<input checked="" type="checkbox"/>
ICMP ECHO攻撃の防止:	<input checked="" type="checkbox"/>
ICMPリダイレクト攻撃の防止:	<input checked="" type="checkbox"/>
LAND攻撃の防止:	<input checked="" type="checkbox"/>
Smurf攻撃の防止:	<input checked="" type="checkbox"/>
WinNuke攻撃の防止:	<input checked="" type="checkbox"/>
Pingスイープ攻撃の防止:	<input checked="" type="checkbox"/>

2. **適用**をクリックします。

DoS (Denial Of Service) 攻撃は、ネットワークベースの攻撃であり、インターネットで提供されているサービスを利用できなくするものです。DoS 攻撃では、多数のネットワーク接続を開始し、サーバまたはサーバ上で動作するプログラムを停止させたり、サーバリソースを枯渇させたり、インターネットサービスへのユーザーのアクセスを拒否したりします。その結果、ネットワークサービスが機能しなくなります。

8.5.2.2 IPv4 アドレスフィルタリング

1. **詳細設定** > **セキュリティ設定** タブをクリックして、左側のナビゲーションツリーから **IPv4 アドレスフィルタリング** を選択します。右側のメイン表示部分で、IP アドレスフィルタリング機能を有効にします。フィルタリング方式を選択して、**新規作成** をクリックします。次に、表示されるダイアログボックス内で、図 8-15 に示すとおり、WAN インターフェースから LAN ポートへの IP アドレスのフィルタリングルールを設定します。

図 8-15 IPv4 アドレスフィルタリング

IPv4アドレスフィルタリング

このページでは、WAN-to-LANフィルタを設定し、WANにある特定のIPアドレスがLANにアクセスしないようにすることができます。

有効 IP フィルタ: (IPフィルタリング機能を有効にしている場合、デバイスの転送性能が低下します。)

フィルタリング方法:

ルール名	プロトコル	方向	LAN側IPアドレス	WAN側IPアドレス
----	----	----	----	----

ルール名:

プロトコル:

方向:

LAN側の開始IPアドレス:

LAN側の終了IPアドレス:

WAN側IPアドレス: --

2. **適用** をクリックします。

IP アドレスのフィルタリング機能は、宅内ゲートウェイで設定するセキュリティ対策です。外部 IP アドレスセグメントのすべてのポートまたは一部のポートとの通信を、イントラネットの IP アドレスセグメントのすべてのポートまたは一部のポートで有効または無効にします。IP アドレスのフィルタリング設定は、イントラネット内のデバイスと外部デバイス間の通信を制限するために使用されます。

表 8-3 で、IPv4 アドレスのフィルタリングに関するパラメータについて説明します。

表 8-3 IPv4 アドレスのフィルタリングに関するパラメータ

パラメータ	説明
有効 IP フィルタ	IP アドレスのフィルタリング機能を有効にするかどうかを指定します。
フィルタリング方法	<p>ブラックリストまたはホワイトリストを使用して IP アドレスのフィルタリングルールを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブラックリスト: フィルタリングルールリストのルールを満たしているデータが通過できないように指定します。 ホワイトリスト: フィルタリングルールリストのルールを満たしているデータが通過できるように指定します。 ハイブリッド: 上り方向であるか下り方向であるかに基づいて、パケットがフィルタリングされるように指定します。上り方向または下り方向の特定の IP パケットが通過できます(または通過できません)。 <p>上述の方法の 1 つだけを選択できます。</p>
プロトコル	プロトコルのタイプを指定します。TCP/UDP、TCP、UDP、ICMP、すべてを指定できます。
優先度	<p>IP アドレスの優先度を指定します。ハイブリッドのフィルタリング方法を選択すると、このパラメータを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 範囲: 0 ~ 255。
方向	<p>フィルタリングルールを適用する方向を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 双方向: フィルタリング方法が ブラックリストまたはホワイトリストの場合にのみ、この値を使用できます。この値は変更できません。 上り方向: この値をハイブリッドモードで選択すると、フィルタリングルールは上り方向に適用されます。ハイブリッドフィルタリングモードでは、上り方向または下り方向のいずれか 1 つのみを選択できます。 下り方向: この値をハイブリッドモードで選択すると、フィルタリングルールは下り方向に適用されます。
LAN 側の開始 IP アドレス	LAN 側の開始 IP アドレスを指定します。
LAN 側の終了 IP アドレス	LAN 側の終了 IP アドレスを指定します。
LAN 側の TCP ポート	LAN 側のポート ID を指定します。 プロトコル が TCP/UDP または TCP に設定されている場合、このパラメータを設定できます。
LAN 側の UDP ポート	LAN 側のポート ID を指定します。 プロトコル が TCP/UDP または UDP に設定されている場合、このパラメータを設定できます。

パラメータ	説明
WAN 側の IP アドレス	WAN 側の IP アドレスを指定します。
WAN 側の TCP ポート	WAN 側のポートの ID を指定します。プロトコルが TCP/UDP または TCP に設定されている場合、このパラメータを設定できます。
WAN 側の UDP ポート	WAN 側のポートの ID を指定します。プロトコルが TCP/UDP または UDP に設定されている場合、このパラメータを設定できます。
処理	IP フィルタリング処理を指定します。ハイブリッドのフィルタリング方法を選択すると、このパラメータを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> 許可: IP フィルタリングルールを満たしたパケットを許可します。 破棄: IP フィルタリングルールを満たしたパケットを破棄します。

8.5.2.3 MAC アドレスフィルタリング

1. **詳細設定 > セキュリティ設定** タブをクリックし、左側のナビゲーションツリーで **MAC アドレスフィルタリング** を選択します。右側のメイン表示部分で、MAC フィルタリングを有効にしてフィルタリング方法を選択した後に、**新規作成** をクリックします。表示されるダイアログボックスで、図 8-16 に示すように、PC がインターネットにアクセスする際の MAC フィルタリングルールを設定します。

図 8-16 MAC アドレスフィルタリング

MACアドレスフィルタリング

このページではMACフィルタを設定し特定のPCのインターネットアクセスを禁止することができます。

MACフィルタを有効にする:

フィルタリング方法: ブラックリスト ▼

新規作成
削除

	送信元MACアドレス
----	----

送信元MACアドレス: *(AA:BB:CC:DD:EE:FF)

適用
キャンセル

2. **適用** をクリックします。

ネットワーク上の PC の MAC アドレスリストは、ONT 上に保存されます。MAC フィルタリングルールを設定することにより、そのルールに準拠する PC がインターネットサービスにアクセスできるようにしたり、そのルールに準拠しない PC がインターネットサービスにアクセスできないようにしたりできます。1 台の PC が複数の IP アドレスを有する場合がありますが、MAC アドレスは一意です。そのため、MAC フィルタリングルールを設定すると、LAN 上の PC のインターネットサービスのアクセス権限が効果的に制御されます。

表 8-4 で、MAC フィルタリングに関するパラメータについて説明します。

表 8-4 MAC アドレスのフィルタリングに関するパラメータ

パラメータ	説明
MAC フィルタを有効にする	MAC アドレスフィルタリング機能を有効にするかどうかを指定します。
フィルタリング方法	<p>ブラックリストまたはホワイトリストを使用して MAC アドレスのフィルタリングルールを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブラックリスト: フィルタリングルールリストのルールを満たしているデータが通過できないように指定します。 ホワイトリスト: フィルタリングルールリストのルールを満たしているデータが通過できるように指定します。 <p>このフィルタリング方法はグローバルに適用される設定です。したがって、ブラックリストの方法とホワイトリストの方法を同時に使用することはできません。</p>
送信元 MAC アドレス	MAC アドレスフィルタリングルールの送信元 MAC アドレスを指定します。

8.5.2.4 Wi-Fi MAC アドレスフィルタリング

1. **詳細設定** > **セキュリティ設定** タブをクリックして、左側のナビゲーションツリーから **Wi-Fi MAC アドレスフィルタリング** を選択します。右側のペインで、**WAN MAC フィルタを有効にする** を選択して、フィルタリング方法を設定し、**新規作成** をクリックします。表示されたダイアログボックスで、図 8-17 に示すように、SSID ベースの MAC アドレスフィルタルールを設定します。

図 8-17 Wi-Fi MAC アドレスフィルタリング

Wi-Fi MACアドレスフィルタリング

このページではMACフィルタを設定し特定のPCのインターネットアクセスを禁止することができます。

WLAN MACフィルタを有効にする:

フィルタリング方法: ブラックリスト ▼

新規作成 削除

	SSIDインデックス	送信元MACアドレス
----	----	----

SSIDインデックス: SSID1 ▼

送信元MACアドレス: (AA:BB:CC:DD:EE:FF)

適用 キャンセル

2. **適用**をクリックします。

表 8-5 では、ワイヤレスネットワーク MAC フィルタリングの設定パラメータについて説明します。

表 8-5 ワイヤレスネットワーク MAC フィルタリングのパラメータ

パラメータ	説明
WLAN MAC フィルタを有効にする	WLAN MAC フィルタ機能を有効または無効にします。
フィルタリング方法	MAC フィルタリング方法を指定します。 ブラックリスト または ホワイトリスト に設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ブラックリスト: ブラックリストのルールに一致するデータパケットの通過を禁止します。 ホワイトリスト: ホワイトリストのルールに一致するデータパケットの通過を許可します。 ブラックリストモードまたはホワイトリストモードはグローバルな設定です。この2つの方法を同時に使用することはできません。
SSID インデックス	MAC アドレスフィルタリングを設定するWLANのSSIDインデックスを指定します。
送信元 MAC アドレス	MAC フィルタリングルールでの送信元MACアドレスを指定します。

8.5.2.5 ペアレンタルコントロール

詳細設定 > セキュリティ設定タブをクリックして、左側のナビゲーションツリーからペアレンタルコントロールを選択します。右側のペインで、平日と休日のネットワーク閲覧時間や Web サイトへのアクセスに関する様々な制限を設定します。図 8-18 に示すように、お子様が指定の時間帯のみネットワークにアクセスすることを許可したり、年齢制限のある不適切なコンテンツにアクセスさせないように設定できます。

図 8-18 ペアレンタルコントロール

ペアレンタルコントロール

このページでは、インターネットのアクセス制限を設定し、直接監視をしなくても子どもが安全にインターネットを使用できるようにします。ペアレンタルコントロールにより、子どもがインターネットを使用できる時間やアクセスできるウェブサイトの指定ができます。

概要 | テンプレート | 統計 [ヘルプ](#)

全てのデバイスに適用 指定したデバイスに適用

新規作成 削除

デバイス	説明	テンプレートの関連付け
----	----	----

デバイス

指定されたデバイス

説明

デバイスの説明

テンプレートの関連付け

テンプレート

適用 キャンセル

注記

ウィザードでの説明に従ってテンプレートを設定します。右上部の **ヘルプ** をクリックすると、必要に応じてテンプレートの設定方法に関するオンラインヘルプを確認できます。

8.5.3 転送ルール

ここでは、Web ページから DMZ、ポートマッピング、ポートトリガを設定する方法について説明します。

8.5.3.1 DMZ 設定

1. **詳細設定 > 転送ルール**タブをクリックし、左側のナビゲーションツリーで **DMZ 設定** を選択します。右側のメイン表示部分で、**新規作成** をクリックします。表示されるダイアログボックスで、図 8-19 に示すように、DMZ に関するパラメータを設定します。

図 8-19 DMZ 設定

DMZ設定

このページではDMZパラメータの設定ができます。DMZデバイスは信頼できない外部からの接続がデバイスに確立されるのを制限します。これは安全なシステムと安全ではないシステム間のバフファとなります。WANポートがポートマッピングテーブルに登録されていない場合、WAN接続からのアプリケーション要求はDMZデバイスに転送されます。

新規作成 削除

WAN名	DMZの有効化	ホストアドレス
---	---	---

DMZを有効にする:

WAN名: 1_TR069_INTERNET_R_VID_10

ホストアドレス: 192.168.1.100 00:e0:4c:77:4f:d7

適用 キャンセル

2. 適用をクリックします。

非武装地帯(DMZ)は、ONT が受信したすべてのパケットを、指定した内部サーバを介して転送できるようにする技術です。この技術により、LAN 内のコンピュータをインターネット上のすべてのユーザーに完全に公開することや、指定した IP アドレスを持つホストとインターネット上の他のユーザーまたは他のサーバの間で制限なしに相互に通信することが可能になります。このような方法で、指定した IP アドレスを持つホスト上で多くのアプリケーションが動作できます。指定した IP アドレスを持つホストは、識別可能なすべての接続とファイルを受け入れます。



注意事項

LAN 側のデバイスが Web サイトサービスや他のネットワークサービスを提供しない場合は、デバイスを DMZ ホストに設定しないでください。DMZ ホストのポートはすべて、インターネットに対して開かれているからです。

表 8-6 で、DMZ に関するパラメータについて説明します。

表 8-6 DMZ に関するパラメータ

パラメータ	説明
DMZ を有効にする	DMZ を有効にするかどうかを指定します。
WAN 名	WAN インターフェースの名前を指定します。WAN インターフェースがポートマッピングテーブルにない場合、WAN 接続からのアプリケーション要求は、DMZ のホストに直接転送されます。

パラメータ	説明
ホストアドレス	DMZ の IP アドレスを指定します。

8.5.3.2 Ipv4 ポートマッピング

ポートマッピングは、イントラネットサーバをエクストラネットに対して開くことができるように指定します(たとえば、イントラネットがエクストラネットに WWW サーバまたは FTP サーバを提供します)。ポートマッピングは、エクストラネットのユーザーがイントラネットサーバにアクセスできるように、イントラネットのホストの IP アドレスおよびポート ID をエクストラネットの IP アドレスおよび対応するポート ID にマップします。ポートマッピングでは、ユーザーは、イントラネットの IP アドレスを参照できず、エクストラネットの IP アドレスがユーザーに表示されます。

ナビゲーションパス


1. **詳細設定 > 転送ルール**タブをクリックし、**Ipv4 ポートマッピング**を選択します。表示されるダイアログボックスで、 8-20 に示すように、ポートマッピングに関するパラメータを設定します。

図 8-20 Ipv4 ポートマッピング

IPv4ポートマッピング

このページではポートマッピングパラメータを設定して、LANネットワーク上に仮想サーバを設定し、これらのサーバをインターネットからアクセスできるようにします。
注: 既存の音声サービス用のポートはマッピングポートの範囲に入れることはできません。

新規作成 削除

	マッピング名	WAN名	内部ホスト	外部ホスト	有効
----	----	----	----	----	----

種別: カスタム設定 アプリケーション

アプリケーション:

ポートマッピングを有効にする:

マッピング名:

WAN名:

内部ホスト: *

外部送信元IPアドレス: --

新規作成 適用 キャンセル

2. **適用**をクリックします。

パラメータの説明

表 8-7 で、Ipv4 ポートマッピングに関するパラメータについて説明します。

表 8-7 Ipv4 ポートマッピングに関するパラメータ

パラメータ	説明
ポートマッピングを有効にする	ポートマッピングを有効にするかどうかを指定します。
マッピング名	ポートマッピングルールの名前を示しています。
WAN 名	ポートマッピングを有効にする WAN インターフェースの名前を指定します。
内部ホスト	ポートをマッピングするホストの IP アドレスを指定します。
プロトコル	ポートマッピングパケットのプロトコルの種類を指定します。TCP、UDP、TCP/UDP を指定できます。
外部送信元 IP アドレス	外部データパケットの送信元 IP アドレスを指定します。

8.5.3.3 ポートトリガ設定

1. **詳細設定** > **転送ルール**タブをクリックし、**ポートトリガ設定**を選択します。右側のメイン表示部分で、**新規作成**をクリックします。表示されるダイアログボックスで、図 8-21 に示すように、ポートトリガに関するパラメータを設定します。

図 8-21 ポートトリガ設定

ポートトリガ設定

このページでは、インターネットにアクセスするためLAN側アプリケーションにより使用されるポートの範囲を設定することができます。ポートを自動で有効にすることもできます。
注: 既存の音声サービス用のポートはオープンポートの範囲に入れることはできません。

新規作成
削除

	WAN名	ポートトリガの有効化	トリガポート	オープンポート	トリガプロトコル	オープンプロトコル
----	----	----	----	----	----	----

ポートトリガを有効にする:

WAN名:

トリガプロトコル:

オープンプロトコル:

開始トリガポート:

終了トリガポート:

開始オープンポート:

終了オープンポート:

適用
キャンセル

2. **適用**をクリックします。

ポートトリガは、対応するイントラネットポートよりパケットを送信し、そのパケットがホスト上のイントラネットポートにマッピングされたときに、特定のエクストラネットポートが自動的に有効になるように指定します。特定のマッピングパケットは、エクストラネットのパケットが対応するホストにマッピングされるように、イントラネットを介して ONT から送信されます。ゲートウェイファイアウォール上で指定したポートが、リモートアクセスのために一部のアプリケーションに対して開かれます。ポートトリガは、ファイアウォールのオープンポートを動的に有効にできます。

表 8-8 で、ポートトリガに関するパラメータについて説明します。

表 8-8 ポートトリガに関するパラメータ

パラメータ	説明
ポートトリガを有効にする	ポートトリガを有効にするかどうかを示します。
WAN 名	ポートトリガを有効にする WAN インターフェースの名前を指定します。
トリガプロトコル	ポートトリガパケットのプロトコルの種類を示します。TCP、UDP、TCP/UDP を指定できます。
オープンプロトコル	オープンデータパケットのプロトコルの種類を指定します。
開始トリガポート	ポートトリガパケットの送信先開始ポートを指定します。

パラメータ	説明
終了トリガポート	ポートトリガパケットの送信先終了ポートを指定します。
開始オープンポート	オープンパケットの送信先開始ポートを指定します。
終了オープンポート	オープンパケットの送信先終了ポートを指定します。

8.5.4 アプリケーション

ここでは、Web ページでの時間設定などの機能の設定方法について説明します。

8.5.4.1 時間設定

1. **詳細設定** > **アプリケーション**タブをクリックし、左側のナビゲーションツリーで**時間設定**を選択します。右側のメイン表示部分で、図 8-22 に示すように、SNTP サーバ、タイムゾーンなど、システム時刻に関連するパラメータを設定します。

図 8-22 時間設定

2. **適用**をクリックします。

表 8-9 で、システム時間に関するパラメータについて説明します。

表 8-9 システム時間に関するパラメータ

パラメータ	説明
ネットワーク時刻サーバを自動で同期する	自動同期のネットワーク時刻サーバ(SNTP サーバ)を有効にするかどうかを指定します。
プライマリ SNTP サーバ	プライマリ SNTP サーバを指定します。

パラメータ	説明
セカンダリ SNTP サーバ	セカンダリ SNTP サーバを指定します。
タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。



注記

SNTP サーバがドメイン名形式に基づいて設定されている場合、スタティックルートまたはデフォルトルートを設定する必要があります。スタティックルートまたはデフォルトルートが設定されていない場合、ONT は SNTP サーバから時間を取得できません。

8.5.4.2 メディア共有

1. **詳細設定** > **アプリケーションタブ**をクリックして、左側のナビゲーションツリーから**メディア共有**を選択します。図 8-23 に示すように、右側のペインで、メディア共有を設定します。

図 8-23 メディア共有

2. **適用**をクリックします。

8.5.4.3 UPnP 設定

1. **詳細設定** > **アプリケーションタブ**をクリックし、左側のナビゲーションツリーで **UPnP 設定**を選択します。右側のメイン表示部分で、図 8-24 に示すように、UPnP を有効にするかどうかを指定します。

図 8-24 UPnP 設定

UPnP設定

このページではユニバーサルプラグアンドプレイ(UPnP)機能の有効化や無効化を設定し、複数種類のネットワークデバイスの自動検出を実施することができます。この機能が有効化されていると、デバイスはネットワークへのアクセス、IPアドレスの取得、データ転送、他のデバイスの検出、他のデバイスデータの取得を実施することができます。

UPnPを有効にする:

No.	説明	外部ポート	内部ポート	プロトコル	IPアドレス	ステータス
--	--	--	--	--	--	--

<< < 0/0 > >> ページ

2. 適用をクリックします。

ユニバーサルプラグアンドプレイ(UPnP)は、プロトコルのグループ名です。UPnPでは、ゼロコンフィギュレーションネットワーキングと、各種ネットワークデバイスの自動検出がサポートされています。UPnPを有効にすると、UPnP対応デバイスがネットワークに動的に接続して、IPアドレスの取得、転送性能の取得、他のデバイスの検出、他のデバイスの性能の把握を行うことができます。UPnP対応デバイスは、このデバイスまたは他のデバイスに影響を与えずに、ネットワークから自動的に切断されます。

UPnPを有効にすると、LAN側のPCはONTを自動的に検出します。ONTは、PCの周辺機器とみなされ、プラグアンドプレイとなります。PC上でアプリケーションソフトウェアの実行後、ONT上でUPnPプロトコルを介してポートマッピングエントリが自動的に生成されるため、実行速度が向上します。

8.5.4.4 スタティック DNS

1. 詳細設定 > アプリケーションタブをクリックして、ナビゲーションツリーからスタティックDNSを選択します。

右側のペインで、図 8-25 に示すように、DNSパラメータを設定し、スタティックDNSのドメイン名解決を設定できます。

図 8-25 スタティック DNS

スタティック DNS

このページでは、DNSサーバ、スタティックドメイン名解決を設定できます。

DNS検索リスト設定

新規作成 削除

ドメイン名	WAN名	DNSサーバ
----	----	----

ドメイン名: *

WAN名: ▼

DNSサーバ:

適用 キャンセル

スタティック DNS 設定

新規作成 削除

ドメイン名	IPアドレス
----	----

ドメイン名: *

IPアドレス: *

適用 キャンセル

2. **適用**をクリックします。

8.5.5 WLAN

このトピックでは、Web ページから WLAN の 2.4G および 5G の基本設定および詳細設定を行う方法について説明します。

8.5.5.1 2.4G 基本ネットワーク設定

1. **詳細設定** > **WLAN** タブをクリックして、左側のナビゲーションツリーから **2.4G 基本ネットワーク設定** を選択します。図 8-26 に示すように、右側のペインで、2.4G Wi-Fi ネットワークの基本パラメータを設定します。

図 8-26 2.4G 基本ネットワーク設定

2.4G基本ネットワーク設定

このページでは、2.4GHz帯ワイヤレスネットワークの基本パラメータの設定ができます。2.4GHz帯ワイヤレスネットワークが無効化されている場合、このページは空白です。

警告:

- ワイヤレスネットワークパラメータを変更するとワイヤレスネットワークサービスが一時的に中断される可能性があります。
- セキュリティ保護のため、WPA2または WPA/WPA2認証モードを使用することをお勧めします。

WLANの有効化

新規作成 削除

SSIDインデックス	SSID名	SSIDの状態	接続デバイス数	SSIDのプロードキャスト	セキュリティ設定
<input type="checkbox"/> 1	2.4GSSID	有効	32	有効	設定済み

SSID設定詳細

SSID名: * (1-32文字)

SSIDの有効化:

接続デバイス数: * (1-32)

SSIDのプロードキャスト:

WMMの有効化:

認証モード:

暗号化モード:

WPA PreSharedKey: 非表示 * (8-63文字または64文字(16進文字))

WPAグループキー更新
間隔: *(600 ~ 86400秒)

WPSを有効にする:

WPSモード:

PBC:

2. **適用**をクリックします。

表 8-10 で、2.4G Wi-Fi ネットワークの基本パラメータについて説明します。

表 8-10 基本ワイヤレスネットワーク設定

パラメータ	説明
WLAN の有効化	ワイヤレスネットワークを有効にするかどうかを指定します。以下のパラメータは、ワイヤレスネットワークが有効になっている場合のみ設定できます。
SSID 名	ワイヤレスネットワークの名前を指定します。これは、各種ワイヤレスネットワークを区別するために使用されます。タブ文字無しで、最大 32 文字から構成されます。ONT の作成後

パラメータ	説明
	に、デフォルトの SSID1 (WirelessNet) が作成されます。システムでは最大 4 個の SSID を同時に設定できますが、SSID 別に IP アドレスを Wi-Fi ターミナルに割り当てることはできません。
SSID の有効化	接続を有効にするかどうかを指定します。
接続デバイス数	STA の数を指定します。1 ~ 32 の範囲で指定します。
SSID のブロードキャスト	ブロードキャストを有効にするか非表示にするかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> このオプションボックスを選択した場合、SSID のブロードキャスト機能が有効になるように指定されます。ONT は、SSID、すなわちワイヤレスネットワークの名前を定期的にブロードキャストします。このような方法で、STA はワイヤレスネットワークを検索できます。 このオプションボックスを選択しなかった場合は、SSID のブロードキャスト機能が無効になるように指定されます。SSID を非表示にすると、STA はワイヤレスネットワークを検索できなくなり、SSID は要求しない限り取得できなくなります。
WMM の有効化	Wi-Fi マルチメディアを有効にするかどうかを指定します。
認証モード	ワイヤレスネットワークへのアクセスを要求する STA の認証モードを指定します。認証モードは、オープン、共有、WPA Pre-Shared Key、WPA2 Pre-Shared Key、WPA/WPA2 Pre-Shared Key、WPA エンタープライズ、WPA2 エンタープライズ、または PA/WPA2 エンタープライズから指定できます。 デフォルトでは、オープンに設定されています。つまり、STA は認証なしでネットワークにアクセスできます。
暗号化モード	ワイヤレスネットワークへのアクセスを要求する STA の暗号化モードを指定します。暗号化モードと暗号化パラメータは、認証モードによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> 認証モードが オープン に設定されている場合、暗号化モードは None または WEP に設定できます。 認証モードが 共有 に設定されている場合、暗号化モードは WEP になります。 認証モードが WPA Pre-Shared Key、WPA2 Pre-Shared Key、WPA/WPA2 Pre-Shared Key、WPA Enterprise、WPA2 Enterprise、または WPA/WPA2 Enterprise に設定されている場合、暗号化モードは AES、TKIP、または TKIP&AES に設定できます。



注記

- Wi-Fi ターミナルで設定されるセキュリティ設定と暗号化モードは、ONT のセキュリティ設定と暗号化モードと同じにする必要があります。TKIP&AES または AES 暗号化モードが Wi-Fi ターミナルで設定されていない場合、Wi-Fi ターミナルのドライバーのバージョンが古い可能性があります。その場合は、ドライバーのバージョンを更新してください。
- 2 つの SSID が構成されているとき、一方の SSID の情報を変更すると、他方の SSID はチャンネルを選択し直すため、サービスが数分間中断します。
- WPS 機能は、1 つのバンド専用で SSID1 で使用できます。また、同じバンド内の複数の SSID に対して WPS を有効にしないでください。有効にすると、Wi-Fi 接続に異常が発生する可能性があります。

8.5.5.2 2.4G 詳細ネットワーク設定

1. **詳細設定 > WLAN** タブをクリックして、左側のナビゲーションツリーから **2.4G 詳細ネットワーク設定** を選択します。図 8-27 に示すように、右側のペインで、2.4G Wi-Fi ネットワークの詳細パラメータを設定します。



注記

2.4G 基本ネットワーク設定 で **WLAN の有効化** が選択されていない場合、このページは空白になります。

図 8-27 2.4G 詳細ネットワーク設定

2.4G詳細ネットワーク設定

このページでは、2.4GHz帯ワイヤレスネットワークの拡張パラメータの設定ができます。2.4GHz帯ワイヤレスネットワークが無効化されている場合、このページは空白です。

⚠警告:
ワイヤレスネットワークパラメータを変更するとワイヤレスネットワークサービスが一時的に中断される可能性があります。

詳細設定

送信出力:	<input type="text" value="100%"/>	▼	
チャンネル:	<input type="text" value="自動"/>	▼	
チャンネル幅:	<input type="text" value="Auto 20/40 MHz"/>	▼	
モード:	<input type="text" value="802.11b/g/n"/>	▼	
DTIM間隔:	<input type="text" value="1"/>	(1~255、デフォルト: 1)	
ビーコン間隔:	<input type="text" value="100"/>	(20~1000ミリ秒、デフォルト: 100)	
RTS閾値:	<input type="text" value="2346"/>	(1~2346バイト、デフォルト: 2346)	
フラグメント閾値:	<input type="text" value="2346"/>	(256~2346バイト、デフォルト: 2346)	

2. **適用** をクリックします。

表 8-11 で、2.4G Wi-Fi ネットワークの Wi-Fi パラメータについて説明します。

表 8-11 ワイヤレスネットワーク詳細パラメータ

パラメータ	説明
送信出力	無線信号の送信光出力を指定します。これは、 20%、40%、60%、80% 、または 100% に設定できます。値が大きくなればなるほど、無線信号のカバレッジが向上します。
チャンネル	ワイヤレスネットワークのチャンネルを指定します。チャンネルは、 規制区域 の値によって異なります。
チャンネル幅	無線のチャンネル幅を指定します。これは、 Auto 20/40 MHz、20 MHz 、または 40 MHz に設定できます。
モード	サポートされるワイヤレスネットワークモードを指定します。これは、 802.11b、802.11g、802.11b/g 、または 802.11b/g/n に設定できます。
DTIM 間隔	DTIM の送信間隔を指定します。値の範囲は 1 ~ 255 で、デフォルト値は 1 です。
ビーコン間隔	ビーコンの送信間隔を指定します。ビーコンは、他のアクセスポイントデバイスまたはネットワーク制御デバイスとの通信に使用されます。値の範囲は 20 ミリ秒 ~ 1000 ミリ秒で、デフォルト値は 100 ミリ秒です。
RTS 閾値	送信要求 (RTS) の閾値を指定します。これは、無線 LAN のデータ伝送での競合を回避するために使用されます。 RTS 閾値が小さければ小さいほど、RTS パケットの伝送周波数が高くなり、中断や競合からのシステム復旧が早くなります。ただし、使用される帯域幅が大きくなり、これは他のネットワークデータパケットのスループットに影響します。 値の範囲は 1 バイト ~ 2346 バイトで、デフォルト値は 2346 バイトです。
フラグメント閾値	フラグメント閾値を指定します。パケットのサイズがこの閾値よりも大きい場合、パケットは分割されます。フラグメントの伝送が中断されると、正常に伝送されなかった部分のみ、再伝送される必要があります。 値の範囲は 256 バイト ~ 2346 バイトで、デフォルト値は 2346 バイトです。

8.5.5.3 5G 基本ネットワーク設定

1. **詳細設定** > **WLAN** タブをクリックして、左側のナビゲーションツリーから **5G 基本ネットワーク設定** を選択します。図 8-28 に示すように、右側のペインで、5G Wi-Fi ネットワークの基本パラメータを設定します。

図 8-28 5G 基本ネットワーク設定

5G基本ネットワーク設定

このページでは、5GHz帯ワイヤレスネットワークの基本パラメータの設定ができます。5GHz帯ワイヤレスネットワークが無効化されている場合、このページは空白です。

警告:

- ワイヤレスネットワークパラメータを変更するとワイヤレスネットワークサービスが一時的に中断される可能性があります。
- セキュリティ保護のため、WPA2または WPA/WPA2認証モードを使用することをお勧めします。

WLANの有効化

新規作成 削除

SSIDインデックス	SSID名	SSIDの状態	接続デバイス数	SSIDのプロードキャスト	セキュリティ設定
<input type="checkbox"/> 5	5GSSID	有効	32	有効	設定済み

SSID設定詳細

SSID名: * (1-32文字)

SSIDの有効化:

接続デバイス数: * (1-32)

SSIDのプロードキャスト:

WMMの有効化:

認証モード:

暗号化モード:

WPA PreSharedKey: 非表示 * (8-63文字または64文字(16進文字))

WPAグループキー更新間隔: *(600 ~ 86400秒)

WPSを有効にする:

WPSモード:

PBC:

適用 キャンセル

2. 適用をクリックします。

以下の表で、5G Wi-Fi ネットワークの基本パラメータについて説明します。

表 8-12 基本ワイヤレスネットワーク設定

パラメータ	説明
WLAN の有効化	ワイヤレスネットワークを有効にするかどうかを指定します。以下のパラメータは、ワイヤレスネットワークが有効になっている場合のみ設定できます。
SSID 名	ワイヤレスネットワークの名前を指定します。これは、各種ワイヤレスネットワークを区別するために使用されます。タブ文字無しで、最大 32 文字から構成されます。ONT の作成後

パラメータ	説明
	に、デフォルトの SSID1 (WirelessNet) が作成されます。システムでは最大 4 個の SSID を同時に設定できますが、SSID 別に IP アドレスを Wi-Fi ターミナルに割り当てることはできません。
SSID の有効化	接続を有効にするかどうかを指定します。
接続デバイス数	STA の数を指定します。1 ~ 32 の範囲で指定します。
SSID のブロードキャスト	ブロードキャストを有効にするか非表示にするかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> このオプションボックスを選択した場合、SSID のブロードキャスト機能が有効になるように指定されます。ONT は、SSID、すなわちワイヤレスネットワークの名前を定期的にブロードキャストします。このような方法で、STA はワイヤレスネットワークを検索できます。 このオプションボックスを選択しなかった場合は、SSID のブロードキャスト機能が無効になるように指定されます。SSID を非表示にすると、STA はワイヤレスネットワークを検索できなくなり、SSID は要求しない限り取得できなくなります。
WMM の有効化	Wi-Fi マルチメディアを有効にするかどうかを指定します。
認証モード	ワイヤレスネットワークへのアクセスを要求する STA の認証モードを指定します。認証モードは、オープン、共有、WPA Pre-Shared Key、WPA2 Pre-Shared Key、WPA/WPA2 Pre-Shared Key、WPA エンタープライズ、WPA2 エンタープライズ、または PA/WPA2 エンタープライズから指定できます。 デフォルトでは、オープンに設定されています。つまり、STA は認証なしでネットワークにアクセスできます。
暗号化モード	ワイヤレスネットワークへのアクセスを要求する STA の暗号化モードを指定します。暗号化モードと暗号化パラメータは、認証モードによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> 認証モードが オープン に設定されている場合、暗号化モードは None または WEP に設定できます。 認証モードが 共有 に設定されている場合、暗号化モードは WEP になります。 認証モードが WPA Pre-Shared Key、WPA2 Pre-Shared Key、WPA/WPA2 Pre-Shared Key、WPA Enterprise、WPA2 Enterprise、または WPA/WPA2 Enterprise に設定されている場合、暗号化モードは AES、TKIP、または TKIP&AES に設定できます。



注記

- Wi-Fi ターミナルで設定されるセキュリティ設定と暗号化モードは、ONT のセキュリティ設定と暗号化モードと同じにする必要があります。TKIP&AES または AES 暗号化モードが Wi-Fi ターミナルで設定されていない場合、Wi-Fi ターミナルのドライバーのバージョンが古い可能性があります。その場合は、ドライバーのバージョンを更新してください。
- 2 つの SSID が構成されているとき、一方の SSID の情報を変更すると、他方の SSID はチャンネルを選択し直すため、サービスが数分間中断します。
- WPS 機能は、1 つのバンド専用で SSID1 で使用できます。また、同じバンド内の複数の SSID に対して WPS を有効にしないでください。有効にすると、Wi-Fi 接続に異常が発生する可能性があります。

8.5.5.4 5G 詳細ネットワーク設定

1. **詳細設定 > WLAN** タブをクリックして、左側のナビゲーションツリーから **5G 詳細ネットワーク設定** を選択します。図 8-29 に示すように、右側のペインで、5G Wi-Fi ネットワークの詳細パラメータを設定します。



注記

5G 基本ネットワーク設定で **WLAN の有効化** が選択されていない場合、このページは空白になります。

図 8-29 5G 詳細ネットワーク設定

5G詳細ネットワーク設定

このページでは、5GHz帯ワイヤレスネットワークの拡張パラメータの設定ができます。5GHz帯ワイヤレスネットワークが無効化されている場合、このページは空白です。

警告:
ワイヤレスネットワークパラメータを変更するとワイヤレスネットワークサービスが一時的に中断される可能性があります。

詳細設定

送信出力:	<input type="text" value="100%"/>	
チャンネル:	<input type="text" value="自動"/>	
チャンネル幅:	<input type="text" value="Auto 20/40/80 MHz"/>	
モード:	<input type="text" value="802.11a/n/ac"/>	
DTIM間隔:	<input type="text" value="1"/>	(1~255、デフォルト: 1)
ビーコン間隔:	<input type="text" value="100"/>	(20~1000ミリ秒、デフォルト: 100)
RTS閾値:	<input type="text" value="2346"/>	(1~2346バイト、デフォルト: 2346)
フラグメント閾値:	<input type="text" value="2346"/>	(256~2346バイト、デフォルト: 2346)

2. **適用** をクリックします。

表 8-13 で、5G Wi-Fi ネットワークの Wi-Fi パラメータについて説明します。

表 8-13 ワイヤレスネットワーク詳細パラメータ

パラメータ	説明
送信出力	無線信号の送信光出力を指定します。これは、 20%、40%、60%、80% 、または 100% に設定できます。値が大きくなればなるほど、無線信号のカバレッジが向上します。
チャンネル	ワイヤレスネットワークのチャンネルを指定します。チャンネルは、 規制区域 の値によって異なります。
チャンネル幅	無線のチャンネル幅を指定します。これは、 Auto 20/40/80 MHz、Auto 20/40 MHz、20 MHz 、または 40 MHz に設定できます。
モード	サポートされるワイヤレスネットワークモードを指定します。これは、 802.11b、802.11g、802.11b/g 、または 802.11b/g/n に設定できます。
DTIM 間隔	DTIM の送信間隔を指定します。値の範囲は 1 ~ 255 で、デフォルト値は 1 です。
ビーコン間隔	ビーコンの送信間隔を指定します。ビーコンは、他のアクセスポイントデバイスまたはネットワーク制御デバイスとの通信に使用されます。値の範囲は 20 ミリ秒 ~ 1000 ミリ秒で、デフォルト値は 100 ミリ秒です。
RTS 閾値	送信要求 (RTS) の閾値を指定します。これは、無線 LAN のデータ伝送での競合を回避するために使用されます。 RTS 閾値が小さければ小さいほど、RTS パケットの伝送周波数が高くなり、中断や競合からのシステム復旧が早くなります。ただし、使用される帯域幅が大きくなり、これは他のネットワークデータパケットのスループットに影響します。 値の範囲は 1 バイト ~ 2346 バイトで、デフォルト値は 2346 バイトです。
フラグメント閾値	フラグメント閾値を指定します。パケットのサイズがこの閾値よりも大きい場合、パケットは分割されます。フラグメントの伝送が中断されると、正常に伝送されなかった部分のみ、再伝送される必要があります。 値の範囲は 256 バイト ~ 2346 バイトで、デフォルト値は 2346 バイトです。

8.5.6 システム管理

ここでは、アカウント管理、ご利用上の注意、Web ページでのシステムの管理方法について説明します。

8.5.6.5 アカウント管理

1. 左側のナビゲーションツリーから、**詳細設定 > システム管理 > アカウント管理**を選択します。右側のペインで、図 8-30 に示すように、**admin** ユーザーのパスワードを変更します。

図 8-30 アカウント管理

アカウント管理

このページでは現在のログインユーザーのパスワードを変更し、セキュリティを強化したり覚えやすいパスワードを設定したりできます。

ログインパスワードがデフォルトのままです。すぐに変更してください。

ユーザー名:	admin	
元のパスワード:	<input type="password"/>	1.パスワードは少なくとも6文字で設定してください。 2.パスワードは次の条件を少なくとも2つ組み合わせて設定してください。 数字、大文字、小文字 特殊文字 (~!@#\$%^&*()-_+=\ []{};:'" <, . > / ?) 3.パスワードにはユーザー名やユーザー名の順序を逆にしたものは使用できません。
新しいパスワード:	<input type="password"/>	
パスワードの確認:	<input type="password"/>	

適用
キャンセル

注記

- ユーザーがデフォルトの共通ユーザー名とパスワードを使用して ONT Web インターフェースにログインした後、**アカウント管理**インターフェースが自動的に表示され、初期パスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。パスワードが正常に変更されると、**アカウント管理**インターフェースは次回以降のログイン時には表示されなくなります。
- Web ページにログインした後に、初期ユーザー名とパスワードを変更してください。

2. **適用**をクリックします。

8.5.6.6 ご利用上の注意

左側のナビゲーションツリーで、**詳細設定 > システム管理 > ご利用上の注意**を選択します。図 8-31 に示すように、右側のペインに、本製品の安全措置が表示されます。

図 8-31 ご利用上の注意

⚠ 危険

- 本製品は水や液体で濡らさないようにしてください。また、ケーブルの抜き差しは濡れた手で行わないでください。ケーブルの抜き差しは、必ず機器を停止して、電源を切ってから行ってください。
- 万が一、本製品が濡れたり、発煙や異常な音、異臭などが発生した場合は、ただちに本製品の使用を中止して、電源を切り、全てのケーブル（電源ケーブルやネットワークケーブルなど）を抜いてください。本製品に異常がある場合は、サービス提供元が指定するお問い合わせ先にご連絡ください。
- 本製品を火気の近く、または高温になる場所で使用しないようにしてください。本体やケーブルが破損して火災や感電の原因となる可能性があります。また、本製品は水周りまたは湿った場所のそばに置かないでください。
- 本製品を使用中に、あやまって落としてしまい故障した場合には、電源を切って、電源ケーブル、イーサネットケーブル、ネットワークケーブルなど全てのケーブルを抜いてください。また、本製品をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
- 利用電圧は本製品の入力電圧の要件に適合している必要があります。また、付属の電源アダプタ以外は使用しないでください。使用すると本製品で異常が発生する可能性があります。危険です。
- 本製品の電源アダプタは、たこ足配線にしないでください。たこ足配線にするとテーブルタップなどが過熱、劣化する可能性があります。危険です。
- 感電またはその他の危険を回避するために、電源プラグは清潔で乾燥した状態を保ってください。
- 本製品は、横置き設置として設計されていますので、縦置きでの設置をしないでください。また、他の物をその上に重ね置きをしないでください。熱や歪みにより本製品が損傷する場合があります。また、放熱のため、機器の周囲に少なくとも10cm以上のスペースを確保してください。
- 金属部品などの異物が通気孔から本製品に入らないようにしてください。また、通気孔を他の物で塞がないようにしてください。
- 引っかいた場所からはがれた塗装によって本製品に異常が発生するおそれがあるため、本製品の外装を引っかいたりしないでください。塗装が本製品に入ると、ショートするおそれがあります。また、はがれた塗装によって人体にアレルギー反応が発生するおそれがあります。
- 雷が発生した場合には、電源を切って、電源ケーブル、イーサネットケーブル、ネットワークケーブルなど全てのケーブルを抜いてください。
- 本製品を電子レンジ、冷蔵庫、携帯電話等、強力な磁場や磁界が発生する電子機器のそばに置かないでください。
- 部品や付属品を誤って飲み込むことがないように幼児の手の届かないところに設置してください。

⚠ 注意

- 本製品を設置する際にはメーカーの要件を必ず守ってください。
- 本製品はレーザー製品です。保護メガネを着用せずに光ポートを直接覗きこんだりしないでください。
- 本製品を使用する環境温度については、本製品の“周囲温度”の仕様範囲内で使用してください。
- 本製品を移動する場合には、かならず電源ケーブルをコンセントからはずして移動してください。また、電源ケーブルをコンセントからはずす場合は、ケーブルをひっぱらずに電源プラグをつかんでコンセントからはずしてください。
- 本製品を長期間使用しない場合には、電源を切って電源プラグを抜いてください。
- 損傷するおそれがあるため、ケーブルを踏みつけたり、引っ張ったり、引きずったり、無理やり曲げたりしないでください。ケーブルが損傷すると、本製品が故障するおそれがあります。
- 損傷または劣化したケーブルは使用しないでください。
- 本製品を勝手に分解しないでください。本製品に異常がある場合は、サービス提供元が指定するお問い合わせ先にご連絡ください。
- 本製品を使用するにあたり、ほこりの多い場所に置かないでください。
- 本製品は清潔な状態に保ってください。本製品のほこり、よごれをふきとる場合、濡れた布ではなく乾いた布などでふきとってください。なお、本製品を清掃する前に、本製品を停止し、電源を切って、本製品から電源ケーブルやネットワークケーブルなどすべてのケーブルを抜いてください。
- クリーニング液またはスプレー式洗浄剤を使用して本製品の外装を清掃しないでください。柔らかい布を使用して清掃してください。
- 本製品をテレビ、ラジオなどの近くで使用する場合、影響を与えることがあります。
- 本製品がご不要になった際は、サービス提供元が指定するお問い合わせ先にご連絡ください。
- ネットワークケーブル、電源アダプタ、電源アダプタケーブルは屋外に設置しないでください。こうした対策をしておくことで、雷の場合に発生しやすい機器の損傷や人体への損傷を防ぐことができます。

⚠ ソフトウェア情報

本製品に関するソフトウェア情報については [こちら](#) をご参照ください。

8.5.7 保守診断

ここでは、Web ページでシステムを保守する方法を説明します。

8.5.7.7 保守

左側のナビゲーションツリーで、**詳細設定 > 保守診断 > 保守**を選択します。

1. 右側のメイン表示部分で、図 8-32 に示すように、**ターゲット**および**WAN 名**にターゲットの IP アドレスまたはホスト名を入力し、**開始**をクリックします。

図 8-32 ping テスト

保守

このページではLANやインターネット接続を確認する保守診断機能を使用することができます。

Pingテスト

ターゲット: *

WAN名:

データブロックサイズ: (32-65500、入力なしのデフォルト: 56)

繰り返し: (1-3600、入力なしのデフォルト: 4)

最大タイムアウト時間: (1-4294967s、入力なしのデフォルト: 10)

開始 停止

トレースルートテスト

ターゲット: *

WAN名:

データブロックサイズ: (38-32768、入力なしのデフォルト: 38)

開始 停止

- ping テストに成功すると、**結果に成功**と表示されます。つまり、ONT は送信先の IP アドレスを使用して本デバイスと相互接続できます。
- ping テストに失敗すると、**結果に失敗**と表示されます。つまり、ONT は送信先の IP アドレスを使用して本デバイスと相互接続できません。

8.5.7.8 ログ

左側のナビゲーションツリーから、**詳細設定 > 保守診断 > ログ**を選択します。右側のパネルで、**ログファイルのダウンロード**をクリックします。表示されるダイアログボックスで、**保存**をクリックし、ログファイルを保存するパスを指定して、図 8-33 に示すように、ファイルをローカルディスクに保存します。

図 8-33 ユーザーログ



- **ログファイルのダウンロード**をクリックします。表示されるダイアログボックスで、**保存**をクリックし、ログファイルを保存するパスを指定して、ログファイルをローカルディスクに保存します。

注意事項

ログファイルのダウンロードに IE8 を使用している場合、ダウンロードから 10 秒以上経過してから保存ボタンをクリックすると、ダウンロードされたログファイルは不完全な状態になります。

A 頭字語および略語

ALG	Application Level Gateway(アプリケーションレベルゲートウェイ)
BRAS	Broadband Remote Access Server(ブロードバンドリモートアクセスサーバ)
CATV	Community Antenna Television(共同受信)
DBA	Dynamic Bandwidth Assignment(動的帯域幅割当)
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol(動的ホスト構成プロトコル)
DMZ	Demilitarized Zone(非武装地帯)
DNS	Domain Name Server(ドメインネームサーバ)
DoS	Denial of Service(サービス拒否)
FTP	File Transfer Protocol(ファイル転送プロトコル)
FTTH	Fiber To The Home(ファイバツーザホーム)
XGS-PON	10Gigabit-capable Passive Optical Network(10G 対応パッシブ光ネットワーク)
HTTP	Hyper Text Transport Protocol(ハイパーテキスト転送プロトコル)
IGMP	Internet Group Management Protocol(インターネットグループ管理プロトコル)
ISP	Internet Service Provider(インターネットサービスプロバイダ)
LAN	Local Area Network(ローカルエリアネットワーク)
MAC	Media Access Control(媒体アクセス制御)
NAPT	Network Address and Port Translation(ネットワークアドレスポート変換)
NAT	Network Address Translation(ネットワークアドレス変換)
NMS	Network Management System(ネットワーク管理システム)
OLT	Optical Line Terminal(光回線終端装置)
OMCI	Optical Network Termination Management and Control

	Interface(光ネットワーク終端装置管理および制御インターフェース)
PON	Passive Optical Network(パッシブ光ネットワーク)
PPPoE	Point to Point Protocol over Ethernet(ポイントツーポイントプロトコルオーバーイーサネット)
PSTN	Public Switched Telephone Network(公衆交換電話網)
SIP	Session Initiation Protocol(セッション開始プロトコル)
SOHO	Small Office and Home Office(スモールオフィスホームオフィス)
SSID	Service Set Identifier(サービスセット識別子)
STB	Set Top Box(セットトップボックス)
TCP	Transmission Control Protocol(伝送制御プロトコル)
TKIP	Temporal Key Integrity Protocol(一時キー統合プロトコル)
UDP	User Datagram Protocol(ユーザーデータグラムプロトコル)
UPnP	Universal Plug and Play(ユニバーサルプラグアンドプレイ)
URL	Uniform Resource Locator(ユニフォームリソースロケータ)
VLAN	Virtual Local Area Network(仮想ローカルエリアネットワーク)
VoIP	Voice over IP(ボイスオーバーアイピー)
WLAN	Wireless Local Area Network(無線 LAN)
WEP	Wired Equivalent Privacy(有線と同等なプライバシー)
WPA	Wi-Fi Protected Access(ワイファイプロテクトドアクセス)
WPS	Wi-Fi Protected Setup(ワイファイプロテクトドセットアップ)